

アンケートから見えてきた「深刻な非正規公務員ハラスメントの実態」

広島大学ハラスメント相談室 准教授 北仲千里

【はじめに 結果の見方についての注意】

1. サンプルの代表性についての注意

対象となる人々の母集団からサンプルを無作為抽出したものではなく、アンケートに答えたいという人が答えたものなので、この結果をもとに、

「非正規公務員のうちの何%がハラスメントを受けている」というふうに語ることはできない。

↓

けれど、回答した人たちの中で、

どういう経験の方が、どういう経験よりも多いのか とか

どんなハラスメント行為とどんなハラスメント行為は組み合わさって起きているのか
という、パターン。

自由記述回答で書かれていることの傾向

職種や勤務形態などから見た傾向 などを知ることはできる。

2. 今回の回答者の回答の信頼性

有効回答票の回答内容に矛盾はほぼ見られず、職種無回答者はいないなど、かなり真面目に答えられた回答者が多い、信頼しうるデータと思われる。とっっても長すぎる質問リストに、我慢強く回答にご協力いただいた。

有効回答数 531 全国から、幅広い年代から回答を得られた。こちらが想定するような職員の姿に近い人が多く回答してくれた(学生で短期間アルバイト、というようなものでなく)。

3. 設問を準備する際に、考慮していたこと

○すでに退職した方、契約終了した方も対象としてみた。

→ これが功を奏し、不本意に雇止めになった方の声をたくさん拾うことができた。

○様々な職種に、国や県・市区町村に非正規、非常勤の方がいるだろうと想定し、長い職業リストを用いた。

→ 実際、様々な職種から回答があった。

○勤務日数や時間数(&保険加入)の設問:日本型非正規労働の特徴である、「短時間」ではない勤務をされている方がたくさん答えてくれたので、興味深い対比が可能になった。

○「非正規」ならではのハラスメントや「対等に扱われないこと」をめぐる設問群（差別も）

……当アンケート調査のオリジナル！

○雇止め、会計年度任用職員制度の評価、雇用継続や「公募」について

○そのほか、近年 社会問題化し、法制度の対応も始まった「パワハラ、セクハラ、SOGI ハラ、マタハラ」などの各種ハラスメントの経験や、見聞経験、その影響などについて尋ねた。

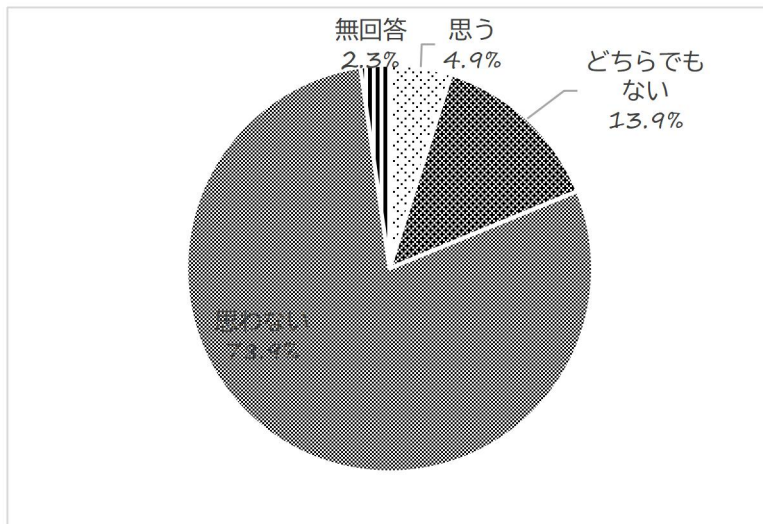
【結果から見えてきたこと】

1 非正規差別や非正規ハラスメント

「対等に扱われていると、思えない。」ということ。

Q19あなたの職場では、正規職員と非正規とが対等であると思いますか。

	%	人
思う	4.9	26
どちらでもない	13.9	74
思わない	78.9	419
無回答	2.3	12
合計	100	531



日本型の「フルタイム非正規」の人＝勤務日数や、社保加入などの属性で見て、クロス集計したところ「フルタイム非正規」の人の方が、「対等でない」「差別がある」「ハラスメントを受けた」と感じている人が多いことが見えた。***いわゆる「フルタイム非正規」の回答者(社会保険に入っている、非正規・委託・派遣・退職)**

(対等であると)「思わない」 83.6% (全回答者 78.9%)

★この質問に対する自由記述の中で、興味深かったのは、「上司」ファクターの記述です。

「その年の行政職員の考え方による」「上司が変わるたび環境もコロコロ対等ではない」

「上司は働きやすいように配慮してくれています。」「非正規でも、上司の好みの人は対等とされていた」

★もう一つのパターンは、待遇の差を書いているもの。

「何年続けても昇給のない非正規待遇は差別」「待遇以外は」「非正規は正規同等かそれ以上の労働を提供するのが当たり前。なのに待遇は派遣事務だからと正規の半分から1/3。」

★そして、「下に見ている」という記述がたくさん。☞ 単なる待遇格差の問題ではなく、<蔑視>が

「非正規は人間じゃない扱い」「完全に上から見ている。」「見下され横柄な態度、言葉遣い」

Q23.非正規公務員として働いてきた中でハラスメントや差別を受けたことがありますか。

	%	人
ある	68.9	366
ない	17.7	94
わからない	9.6	51
無回答	3.8	20
合計	100	531

*いわゆる「フルタイム非正規」の回答者 ハラスメントや差別を受けたこと「ある」 **77.0%**

Q9-1. 勤務

日数(1週間当たり)

	1～2日	3～4日	5～6日	合計
ある	11	105	248	364
	44.0%	70.5%	74.5%	71.8%

やはり、長い時間働いていると、そんな目に遭うことも多い、ということでしょうか。

「ある」と回答した人に、ききました。

	%	人
複数のハラスメントが合わさったもの	28.4	95
パワー・ハラスメント(非正規を理由としたものも含む)	62.4	209
セクシュアル・ハラスメント(ストーキング含む)	3.3	11
妊娠や出産に関わるハラスメント	1.2	4
性的指向や性自認にかかわるハラスメント	0.3	1
性別、国籍、民族、出身地などに基づく差別	1.5	5
年齢に基づくいじめや差別	1.2	4
学歴や出身校などによる差別	1.8	6
合計	100%	335

Q26 今まで受けた中で一番重大なハラスメントや差別を、1つだけ選ぶと

	%	人
上司(正規職員)	63.7	211
上司以外の正規職員	23.3	77
非正規の同僚	8.5	28
組合関係者	2.7	9

住民・顧客や施設等の利用者・取引先など	1.8	6
合計 はい	76.9%	299人 331

Q28. それは、誰からのハラスメントですか

Q35 ハラスメントを受けて体調に変化が悪化することがありましたか (329 人中)

→ 84 人 が「診断が出た」 = 「ハラスメントや差別の経験」ある 366 人中 23.0%

全員に、こういうハラスメント受けたことありますか？ と例を挙げて聞き直しました。

Q42. 非正規であることに関わる不当な扱いやハラスメント (複数回答) 全員に質問

	%	人
正規職の仕事に任された	49.3	260
仕事に必要な情報を(非正規だから)教えてもらえない	40.0	211
「非正規さん」・「会計さん」・「非常勤さん」・「臨職さん」などと呼ばれる	33.0	186
何かと非正規だからと言われる	32.8	174
会議資料・研修資料が渡されないことはある(非正規だから)	27.9	147
仕上げた仕事を正規職に取られた	27.7	146
会議やミーティングがある事を知らされない	26.4	139
仕事に必要な資格を自費で取得した	23.7	125
業務に必要とされる研修を非正規だから自費で行かなければならないことがあった	19.4	102
職員や市民の前で怒鳴られる	15.2	80
非正規を理由に歓送迎会等の課の行事に参加できなかった	13.3	70
自分だけ、明らかにシフトを減らされる	7.2	38

Q39① パワー・ハラスメント(複数回答) 上位 10 位

	%	人
仕事のやり方について何も教えてもらえなかった	28.1	149
納得できない理由でやった仕事について否定された	27.7	147
人格を否定される言動があった	27.5	146
仕事上大切な情報をわざと教えてもらえなかった	26.4	140

必要以上に叱責された	23.9	127
他人のミスを自分のせいにされた	18.5	98
できない程の量や内容の仕事をやるように指示された	18.1	96
聞こえる様に悪口をいわれた	17.5	93
仲間外しをされた	16.0	85
自分にだけ仕事を与えてもらえなかった	15.4	82

↑

でも、これより「非正規ハラスメント」の経験者数の方が多いんですよね。

Q39. ②セクシュアル・ハラスメント(複数回答)

	%	人
私生活を詮索されたり、恋人の有無を尋ねられた	16.0	85
年齢、容姿、服装に関する話題がよく出された	15.4	82
「女のくせに」「男のくせに」などと性別に結び付けて批判された	10.4	55
飲み会などでお酌を強要されたり、異性の隣に座らされたりした	10.0	53
性的な話題を聞かされた	6.6	35
飲み会などで、下品な行為をさせられたり、見せられたりした	5.3	28
あなたの性体験や性関係に関することを話題にされた	4.0	21
気持ち悪い性的な内容のS人Sメッセージや、ショートメール、メールなどが送られてきた	3.2	17
望まないのに抱きつかれたり、身体を触られたり、キスをされたりした	2.6	14
しつこく交際を求められたり、私的な電話やメールをされたりした	1.5	8
性行為に誘われた	1.3	7
トイレや更衣室を覗かれたり、盗撮されたりした	0.9	5
無理やり性行為をされた	0.8	4

経験率「非正規ハラスメントや差別」>「パワー・ハラスメント」>「セクシュアル・ハラスメント」

5～6日/週の回答者のパワハラ経験トップ5

順位	
1	仕事のやり方について何も教えてもらえなかった
1	仕事上大切な情報をわざと教えてもらえなかった
3	納得できない理由でやった仕事について否定された
4	人格を否定される言動があった
5	必要以上に叱責された

1～4/週の回答者のパワハラ経験トップ5

順位	
1	自分にだけ仕事を与えてもらえなかった
2	目の前で机や物にあたり威嚇された
3	人格を否定される言動があった
4	納得できない理由でやった仕事について否定された
5	仕事のやり方について何も教えてもらえなかった

ちなみに、「1～4/週の回答者」というのは、スクールカウンセラー、特別支援学級サポート員、児童相談所、福祉系相談員、労働相談、文化財調査員、男女センター、図書館司書、社会教育関係の中に多く+事務職の3割弱「5～6日/週」という働き方の人が圧倒的に多いのは、事務職、国の事務職、医療

ですが、職種別では「ハラスメントを受けた経験率」「正規・非正規が対等であるか」に、統計的に有意な差は出ませんでした。ちなみに任用先(国、都道府県、市町村、その他)や性別や年齢でもあまり差が出ませんでした。

職種や任用先で差が出ない。どの職種もハラスメントを受けている、というのもこの調査の発見でした。

Q37 ハラスメントや差別を受けた事で、あなたの人生は変わりましたか

	%	人
変わった	47.8	175
変わらない	16.7	61
わからない	21.9	80
無回答	13.7	50
合計	100	366

公務職場でも、SOGIハラはある。

Q41. 次のような言動を、あなたの職場で、見聞きしたことがありますか。(SOGIハラ)

	ある	
性的マイノリティや、男らしくない／女らしくない人に対して、嘲笑したり、差別的な呼称(オカマ、オナベ 気持ち悪い、など)で呼んだりすること。	18.6%	%
	99	人
個人の性的指向や性自認をからかったり、噂したりすること。	12.6%	%
	67	人
同性愛やトランスジェンダーなどの性的マイノリティであるという理由だけで、劣っていると、望ましくない人物と決めつけること。	8.7	%
	46	人
性的マイノリティについて、いじめやからかいの対象とすること。	10.9%	%
	58	人
個人の性自認や性的指向などを、本人の許可なく他人に暴露したり、広めたりすること	8.5	%
	45	人
セクシュアル・マイノリティの当事者が自認する性別、希望する性別での扱いを職場で許可しないこと	4.5	%
	24	人
男らしい／女らしくない振る舞いや服装であることを否定的に評価したりすること	17.5%	%
	93	人

ハラスメント研修は、国家公務員はちゃんとやっている。8割の人は、受けることができている。

Q22. ハラスメント研修が行われていますか？

	国	都道府県	市・特別区	町・村	その他	合計
あった	68.7%	37.8%	28.1%	22.9%	41.5%	36.6%
(人)	46	34	70	8	27	185
合計	67	90	249	35	65	506

2 評価や雇止めについて

勤務評価が「はい」 57.0% 300人

特に「はい」が多い職種(6割以上)

福祉職・女性相談・医療・スクールカウンセラー・学芸員・労務職・**国の事務員&相談員**
(73.7%)

○これまでに雇止めにあった人のうち、

Q45 SQ2 雇い止めに納得できましたか？

	%	人
できた	5.5	3
できなかった	94.5	52
無回答	0	0
合計	100	55

Q47 他の人が雇止めにあうことを見聞きすることはありましたか

	%	人
ある	59.9	235
ない	39.8	156
無回答	0.3	1
合計	100	392

「2022年度で会計年度任用職員制度の開始から3年がたちました。「公募によらない再度の任用を、3年」と定め
ているところでは、3年過ぎた時点で公募が開始されることが考えられます。」

Q48 あなたが就いていた職は、2023年度に公募になりましたか。

(任用先 別)

	国	都道府県	市・特別区	町・村	その他	合計
なった	27.8%	25.3%	29.6%	36.8%	4.5%	25.9%
(人)	20	23	74	14	3	134
総数	72	91	250	38	66	517

3 コロナ禍のもとで

Q50. コロナの感染予防対策・コロナに関して、正規職員と違う対応をされたことがありますか
(任用先 別)

	国	都道府県	市・特別区	町・村	その他	合計
された	16.4%	16.5%	10.8%	13.2%	8.8%	12.5%
(人)	12	15	27	5	6	65

10数%は、いるんですね。

こんなことが起きていたんですね。自由記述より。

「PCR検査が勤務日数が少ないためか、提出日の関係か配布されませんでした。常勤が多忙で理由を正確に聞けませんでした。」

「正規職員は順番でリモート勤務だったが、非正規は通常勤務で密室で面談をしていた。」

「感染状況の共有をしてもらえなかった。」

「出社人数制限のため、正規のみ有給消化した。」

「ワクチンの注射で特別休暇があることを知らされていなかった。」

「正規職員は窓口対応をしないため、違いを感じる状況にありませんでした。感染対策はして頂けましたが、常に対面業務で不安はありました。」

非正規公務員ハラスメント調査コメント②
共同調査者、竹信三恵子（和光大学名誉教授）

8割近くが「正規と非正規、対等でない」 横行する目立つクビハラとマネジメントの欠如 土壌に働き手の権利行使阻む短期契約

1. 被害の「当事者」への初の調査

本論では、この調査を「非正規公務員の労働問題」という視点から分析してみたい。会計年度任用職員などの非正規公務員は、4分の3を女性が占めている（2020年総務省調査）。回答者の属性では、これをほぼ反映して女性が8割を超している（Q2）。勤務日数では月16～20日が42.0%、21～25日が40.5%（Q8）と、正規職員にきわめて近い日数で働く職員が多くを占め、正規職員の「補助」ではなく、公務職場を支える職員であることがわかる。また、パワハラ、セクハラ、マタハラについては、9割以上が言葉の意味を知っていると答え（Q21）、非正規公務員としてはたらく中でハラスメントや差別を受けたことがあるとする回答は7割近くに及ぶ（Q23）。

つまりこの調査は、公務職場の基幹労働者であり、かつ、ハラスメントについて強い当事者性を持つ非正規公務員たちの体験を明らかにした、初の調査と位置付けることができる。

2. 「対等」でない正規と非正規の関係

調査結果でとりわけ目立つのは、「職場では正規・非正規が対等と思うか」（Q19）という問いに対し、「思う」は4.9%にとどまり、78.9%が「思わない」と答えている点だ。このうち先に述べた基幹労働者としての「フルタイム的な非正規公務員」（社会保険に入っている非正規・委託・派遣・退職）では、「思わない」が83.6%にもものぼる。

「非正規公務員として働くなかでハラスメントや差別を受けたことがあるか」（Q23）も、1に述べたように68.9%で、このうち「フルタイム的な非正規」では77.0%にのぼる。「受けたことがある」人達に回数を聞いた質問（Q23-1）では、「何度もある」が66.7%と高い。

一方、「働きやすい職場か」（Q16）、「話し合いができる環境か」（Q17）については回答がばらついている。職場の既存の秩序に従ってさえいけば、そこそこ職務を遂行できるが、根底に「対等でない」身分関係が存在するため、ハラスメントなどの不利益が「日常」になっている職場の状況が見えて来る。

加害者について（Q28）は、「上司（正規職員）」（63.7%）、「上司以外の正規職員」（23.3%）の順に多く、性別による差（Q29）は、男性によるものが多いものの（39.8%）、女性（34.8%）との差はさほど大きくない。

厚労省のパワハラ定義は、①優越的な関係を背景とした言動であって、②業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより、③労働者の就業環境が害されるものという3要素を全て満たすものとされているが、正規と非正規という雇用形態での「対等でない」関係に上司の優越的な関係が重なり、それが非正規公務員のパワハラへの温床となっていることを推察させる。

3. 最低限必要な労務管理の欠落

そうした非対称性が生み出す不合理は、「以下の行為の中で（これまで非正規公務員として勤務してきた中で）、自分がされたことのあるものをすべて選んで下さい（複数回答）」（Q39）というハラスメントの被害体験についての質問への回答から鮮明に浮かび上がる。

このうちパワハラについては「仕事のやり方について何も教えてもらえなかった」「納得できない理由でやった仕事について否定された」など、最低限必要な労務管理が欠けていることを示すものが多く、セクハラについても「私生活を詮索されたり、恋人の有無を尋ねられた」「年齢、容姿、服装に関する話題がよく出された」「『女のくせに』『男のくせに』などと性別に結び付けて批判された」など、職員の私物化とも言える職務に無関係な言動が目立つ。これらも労務管理では禁じ手だ。

「非正規雇用であること」に関わって経験したハラスメント（Q42）でも同様に、「正規職の仕事を任された」「仕事に必要な情報を（非正規だから）教えてもらえない」「『非正規さん』・『会計さん』・『非常勤さん』・『臨職さん』などと呼ばれる」が上位を占める。

背景にあるのは、2020年度から合法化された1年有期の会計年度任用職員を代表とする実態にそぐわない短期契約だ。これらの職員には、調査にも表れたようなフルタイムに近い労働日数の職員も多く、相談業務など高いスキルを求められることが多い。にもかかわらず、労働時間が正職員より多少とも短ければ「パート」として、フルタイム会計年度任用職員には適用される「給与」の体系外の「報酬」とされ、熟練も反映されない低賃金に抑えられる。

このように、「長期に必要な職務」という実態と矛盾した、「いつでも取り換えられる短期」という契約が合法化された結果、公務職場の多くで、職務を把握してそのパフォーマンスを上げられる労務管理のスキルやこれを支える研修がおざなりになりがちだ。加えて、「短期契約＝簡単にクビにできる」という「優越的な関係」が、「矛盾を指摘されたら次の契約を更新せず、職場から退出させる手段」として利用されている。それが、上司・正職員らの言動をハラスメントと感じても抵抗する力を奪う。これらが、調査に表れたようなハラスメントの日常化と、被害への沈黙を生んでいる。

先に触れた「セクハラ」での言動からは、女性が4分の3を占める非正規公務員の現状の中で、こうした短期契約を利用した「優越関係」に「女のくせに」という女性を低く見

る社会意識が加わり、ハラスメント強化している状況が浮かぶ。「これまでで一番重大なハラスメント」(Q26)の自由記述にある「妊娠した時にあなたは経済的に女性なので困らないだろうから退職して欲しいと言われた」も、その一つと言える。

上司によって働きやすさなどが変わる、という自由記述も随所に見られ、ここでも、非正規公務員についての組織的なマネジメント教育がないこと、雇用差別を防ぐための人権に立脚したマネジメント教育の普及が、公務職場でこそ急務であること、が浮かんでくる。

4. 目立つ「クビハラ」と救済システムの不在

ハラスメントを体験したことで、体調に変化が起きたかどうかの問い(Q35)については、「はい」の回答が76・9%にのぼる。これを受けて「受診した」が45・8%、「していない」は45%で(Q35-1)と、受診しない(できない)人も少なくない。ハラスメントの結果、「休職した」は1割程度(Q36)で、うち復帰したのは回答者36人中15人。14人は退職している。

数字には出にくいのが、自由記述では、このような「退職による解決」や「雇用の打ち切り」をちらつかせられたとというものが頻出する。「言いたいことが言える環境か」(Q18)についての自由記述では「本当に怖くて病気退職」「言いたいことを言った結果、退職させられた」。また、「これまで受けた中で一番重大なハラスメント」(Q26)でも、「辞めてもらって構わないと言われた」「意見をいうと、このプロジェクト合っていない。契約終わるなどの言葉があった」「暴言、雇用をちらつかせる言動」「他の職員に迷惑だからうつの方は出勤しないで、といわれた」「契約更新されないかもしれないと上司に言われた」「労基法違反を指摘したら約一年、毎日退職勧奨され、断ると雇い止め」「上司から『いらぬ』発言」「長く働いてきたが、勤務時間を週20時間未満に減らされ、最終的に退職させられた」「パワハラされたと訴えた非常勤をまとめて雇い止め」「3年雇用止めのある不安定さにも耐えがたい。公務員非正規で働く事はしないと決め、仕事探しの幅が狭まった」と、枚挙にいとまがない。このような「クビ」をちらつかせる「クビハラ」も、背景には実態にそぐわない短期契約の合法化がある。

ハラスメントの被害者を支える救済システムの極端な不備も目立つ。ハラスメントについて、誰かに「相談した」は64・8%(Q30)、相談相手で最も多かったのは「上司」で31・1%にのぼり、労働組合や公的相談機関は少ない(Q31)。解決に「取り組んでくれなかった」は49・7%(Q32)、「解決しなかった」が64・5%(Q33)だ。

公務員は労働基本権の保障が不十分だが、代わりに、紛争解決のために人事委員会などが置かれてきた。ところが、従来は正規採用による身分保障が基本とされたこともあり、こうした仕組みは退職すると対象外となり、非正規公務員には十分機能していない。従来「特別職非常勤」として労働組合法など民間並みの労働権を保障されてきた多くの非正規公務員が会計年度任用職員に移行したことで、これらが適用されないという判断を下されつつあり、それらが一段とハラスメント助長する結果を生んでいる。

Q26 の自由記述の中にも、「組合は、取り組んでくれないどころか、もみ消しと2次的パワハラに発展し、最後は雇止め」「相談機関はあるがゼスチャーだけ。相談したら、『雇止め要員』にされてしまう」といった組織内部の「救済機関」の危うさが見えて来る。個人加入のユニオンによる交渉を可能にするなど、組織外の救済機関の整備が不可欠だ。

5. 勤労意欲の減退と住民への不利益

最後に、これらのハラスメントが公務サービスに大きな悪影響を与えていることも、調査から浮かんできた。「(一番重大な)ハラスメントや差別を受けている時にあなたが感じたことや、あなたに起こったこと」(Q34)に対し、「仕事のモチベーションが下がった」「職場の人たち全体への不信感が生まれた」について「当てはまる」がそれぞれ77・9%、63・5%にも達し、「ハラスメントや差別の影響としてあなたに起きたこと」(Q24 複数回答)についても、「何かと否定的に考えるようになった」「思考力・判断能力の低下」「退職を考えるようになった」「眠れない」「効率・スピードが落ちた」「体調不良により職務が遂行できなくなった」と答えているからだ。良質な住民サービスを大きく妨げているらだ。

6. まとめ

この調査は非正規公務員のハラスメントを助長させているものとして、つぎのような点を明らかにした。①職務の実態に合わない短期契約を背景にした「優越的關係」による対等でない関係、②職務の公平で合理的な評価を難しくし、恣意的な評価を放置させている労務管理教育の欠如、③それらを背景にした、働き手の生活の命綱ともいえる雇用を脅しに使う「クビハラ」の横行と、これを監視する組織外も含めた救済システムの事実上の不在、④これらによって引き起こされる住民サービスの劣化。

調査が明らかにした上記の点を直視し、総務省・厚労省・自治体などの公的機関によるさらに詳細な非正規公務員ハラスメント実態調査と、それにもとづいた原因究明・対策を求めたい。

非正規公務員ハラスメントアンケート 結果報告書

「非正規公務員 voices」

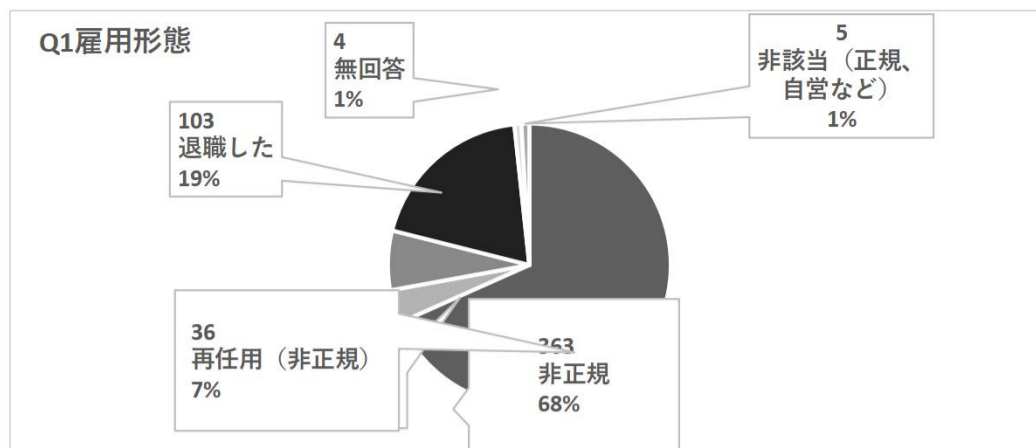
共同調査 広島大学ハラスメント相談室 ハラスメント相談室 北仲千里
ジャーナリスト・和光大学名誉教授 竹信三恵子

- ※ 「非正規公務員 voices」は当事者達が、ラインのオープンチャットに集い日々の書き込みから「ハラスメント」に関してコメントが多く、どれだけの非正規公務員がハラスメントを受けているのか？という疑問からアンケートをする事にした。
- ※ 「非正規公務員 voices」は当事者が多く、アンケート等を開催するには素人である事から、広島大学ハラスメント相談室 准教授 北仲千里さん、ジャーナリスト 竹信三恵子さんの共同調査人の位置づけで協力を頂き開催する事になった。

- ※ 開催期間 2023年4月27日～6月30日
- ※ 回答者数 531名
- ※ 設問数 52問
- ※ アンケート方法 WEBで回答者を募り、アンケートフォームで回答して貰った。
- ※ 報告 北仲千里さん・竹信三恵子さんによる中間報告を8月24日にZOOMでおこなった。
最終報告 10月29日 「官製ワーキングプア大坂集会」午前 第3分科会 voicesスタッフによる報告会
午後 全大会 北仲千里准教授からの報告

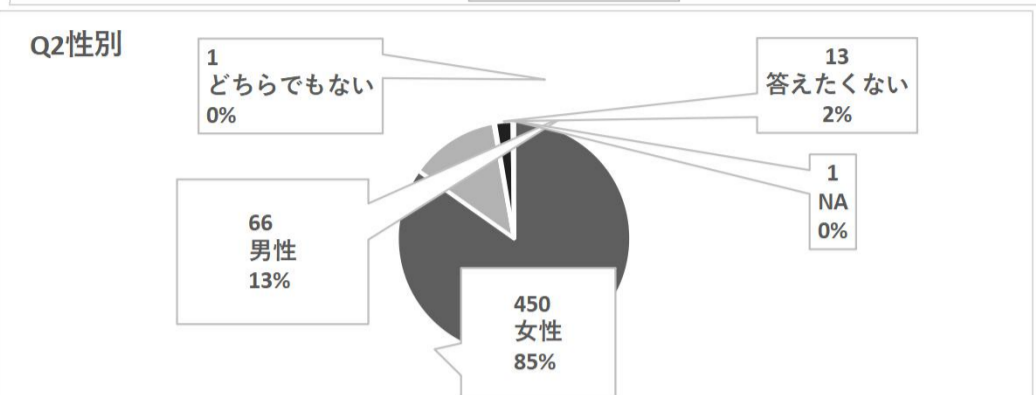
Q1 あなたの2023年4月現在の雇用形態は

	%	人数
非正規	68.4	363
委託・派遣	3.8	20
再任用（非正規）	6.8	36
退職した	19.4	103
無回答	0.8	4
非該当（正規、自営など）	0.9	5
合計	100	531



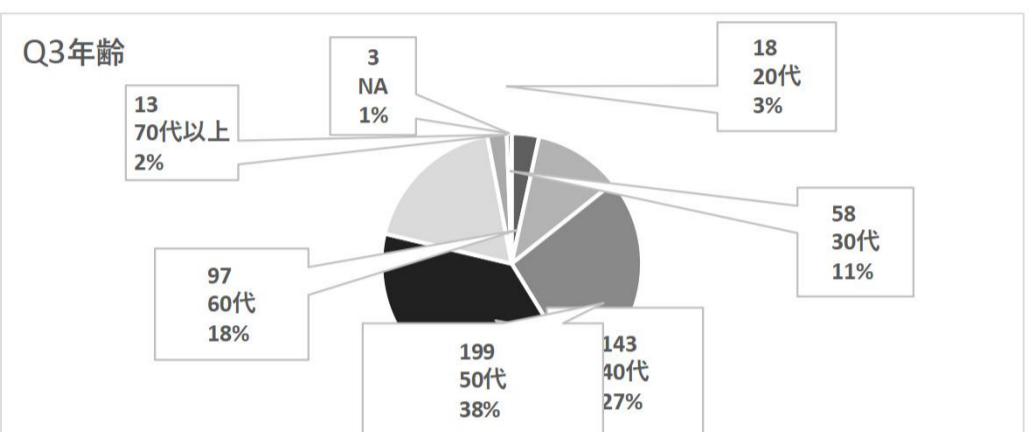
Q2 性別

	%	人数
女性	84.7	450
男性	12.4	66
どちらでもない	0.2	1
答えたくない	2.4	13
NA	0.2	1
合計	100	531



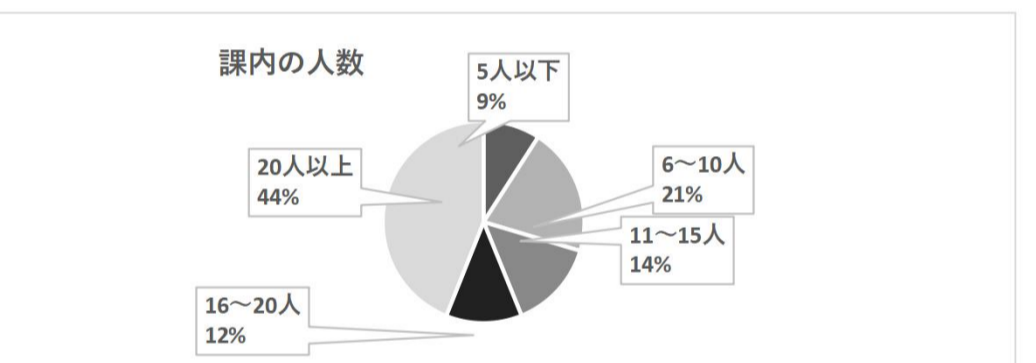
Q3 年齢

	%	人数
20代	3.4	18
30代	10.9	58
40代	26.9	143
50代	37.5	199
60代	18.3	97
70代以上	2.4	13
NA	0.6	3
合計	100	531



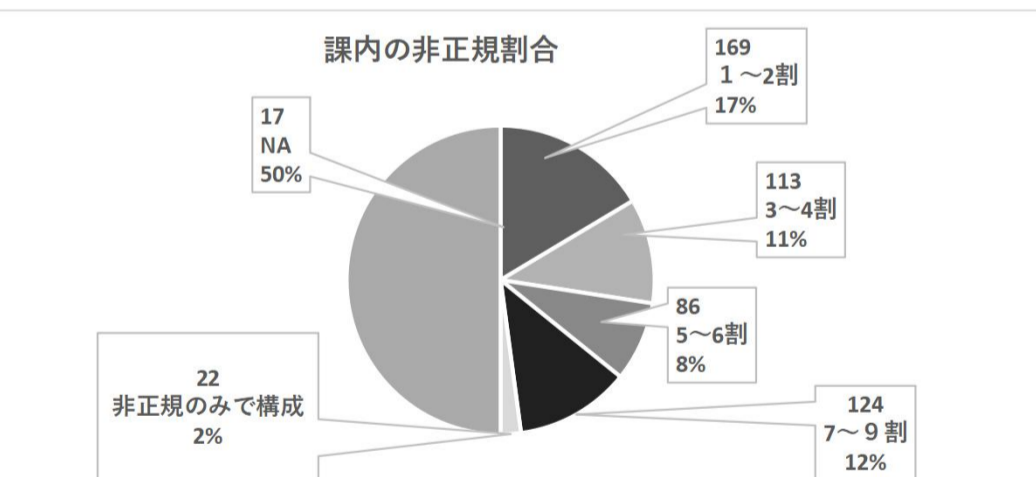
Q4 課内の人数

	%	人数
5人以下	8.9	47
6~10人	20	106
11~15人	13.9	74
16~20人	11.9	63
20人以上	42.9	228
NA	97.6	13
合計	100	531



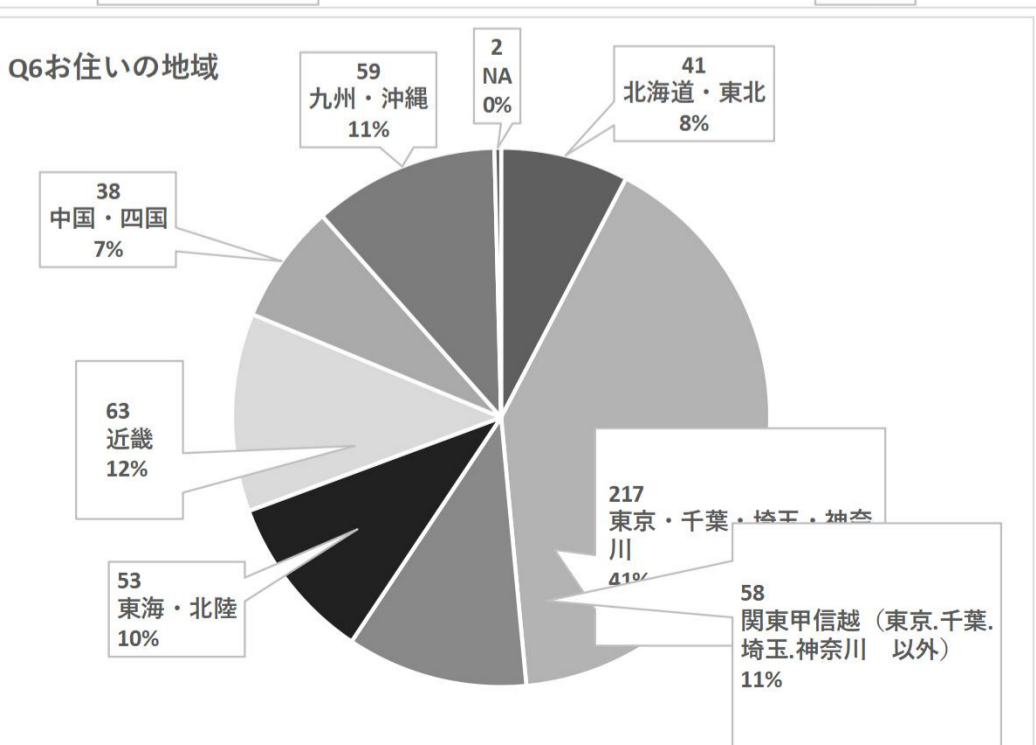
Q5 課内の非正規割合

	%	人数
1~2割	31.8	169
3~4割	21.3	113
5~6割	16.2	86
7~9割	23.4	124
非正規のみで構成	4.1	22
NA	96.8	17
合計	100	531



Q6 お住いの地域

	%	人数
北海道・東北	7.7	41
東京・千葉・埼玉・神奈川	40.9	217
関東甲信越（東京、千葉、埼玉、神奈川以外）	10.9	58
東海・北陸	10	53
近畿	11.9	63
中国・四国	7.2	38
九州・沖縄	11.2	59
NA	0.4	2
合計	100	531



Q7 職業

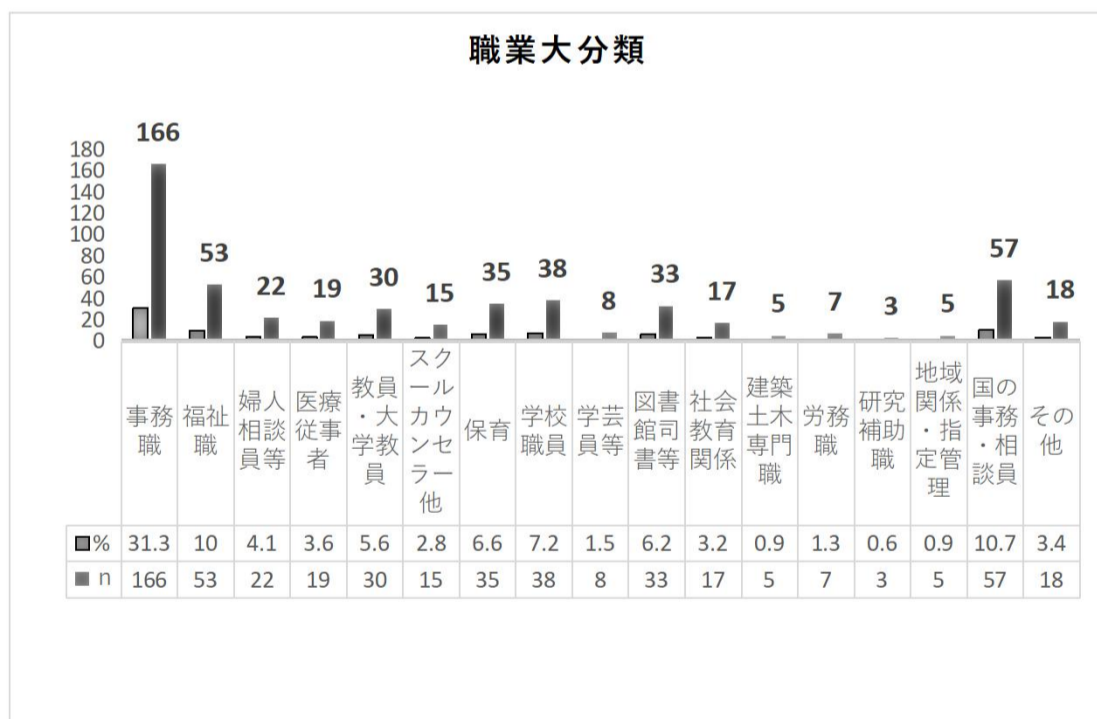
大分類	小分類	%	人数	コード	
1	【事務職】 一般事務	24.5	130	1	
	議会事務局関係	0.4	2	2	
	事務補助	7.2	38	3	
	【福祉職】 介護士	0.4	2	4	
2	介護認定調査員・障害者福祉判定員	0.9	5	5	
	家庭児童相談員	0.8	4	6	
	母子父子相談員	0.8	4	7	
	自立支援相談員・障害者指導員	0.8	4	9	
	児童相談所相談員	0.9	5	10	
	地域包括センター職員	0.6	3	11	
	心理判定員	0.8	3	12	
	労働相談員	0.6	3	13	
	生活相談員、社協など	3	16	14	
	消費生活相談員	0.8	4	15	
	3	婦人相談員・DVセンター、男女センター相談員	4.1	22	8
	4	【医療従事者】 医師	0.2	1	16
		看護師	0.4	2	18
保健師		0.6	3	19	
ソーシャルワーカー（MSW,PSW）		0.4	2	20	
床検査員、聴覚言語、理学療法、臨床工学技士、言語聴覚士		1.3	7	21	
5	栄養士・管理栄養士	0.6	3	22	
	ワクチン接種補助員	0.2	1	23	
	【学校・保育関係】 教員（大学含む）	5.6	30	24	
6	スクールソーシャルワーカー	0.6	3	25	
	学校相談員、スクールカウンセラー	2.1	11	26	
7	学童保育	0.8	4	27	
	保育士・保育補助	6.2	33	28	
8	給食調理員用務員	1.5	8	29	
	実験補助員	0.2	1	30	
	特別支援学級サポート員	2.8	15	31	
	学校司書	2.3	12	32	
	ICT支援員	0.2	1	34	

9	【学芸員】 博物館学芸員、学芸専門員	0.2	1	35
10	図書館司書	5.5	29	37
	図書館司書補助	0.8	4	38
11	【社会教育関係】 社会教育指導員	2.4	13	41
	文化振興補助員	0.4	2	44
	地区公民館職員	0.2	1	45
	12	【技術職】	0.9	5
13	【労務職】 施設警備員・配送員・ごみ収集	0.4	2	48
	運転手	0.6	3	49
	清掃員	0.2	1	50
14	【研究職】	0.4	2	52
		0.2	1	53
15	【地域関係・指定管】 地域コーディネーター	0.4	2	54
	男女センター管理	0.4	2	56
	16	【国の事務・相談員】	5.8	31
16	労働局相談員	1.3	7	58
	運輸局相談員	0.2	1	60
	国税局事務員	0.2	1	62
	コールセンター	0.2	1	65
	法務局事務員	0.4	2	66
	独立行政法人	0.9	5	68
	少年院等相談員	0.2	1	72
	農政局事務員	0.2	1	74
17	※1	4.1	22	78
合計		100%	531	

※1【その他】販売員、ITデザイン職、受付、アーキスト、在外公務員、電話交換、研究職、番組政策、試験監督

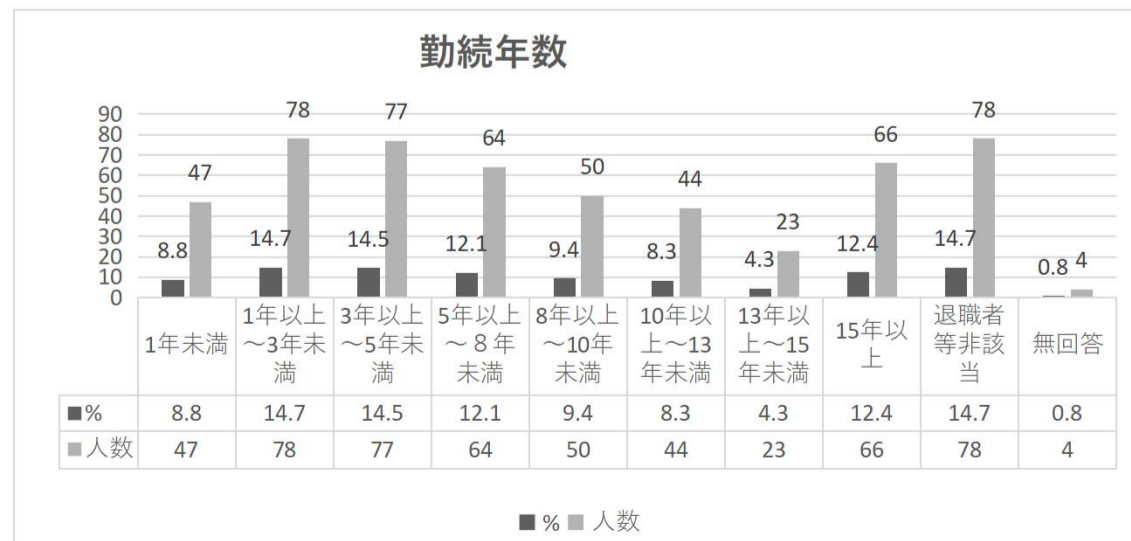
Q7 職業 大分類

	%	n
1 事務職	31.3	166
2 福祉職	10	53
3 婦人相談員等	4.1	22
4 医療従事者	3.6	19
5 教員・大学教員	5.6	30
6 スクールカウンセラー他	2.8	15
7 保育	6.6	35
8 学校職員	7.2	38
9 学芸員等	1.5	8
10 図書館司書等	6.2	33
11 社会教育関係	3.2	17
12 建築土木専門職	0.9	5
13 労務職	1.3	7
14 研究補助職	0.6	3
15 地域関係・指定管理	0.9	5
16 国の事務・相談員	10.7	57
17 その他	3.4	18
合計	100	531



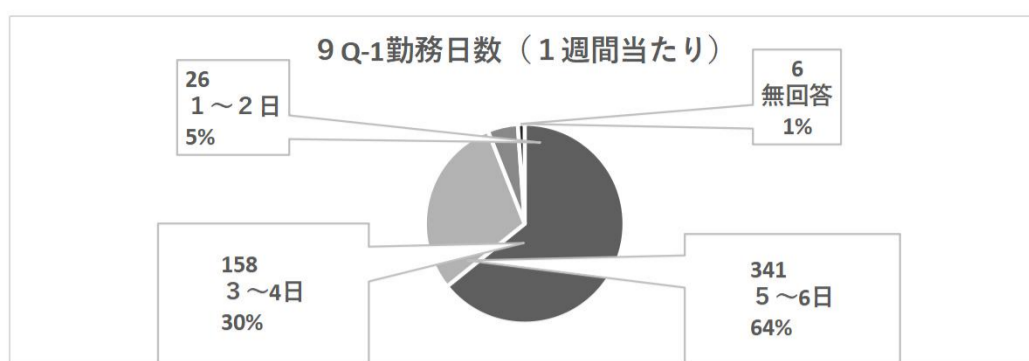
Q8 勤務年数

	%	人数
1年未満	8.8	47
1年以上～3年未満	14.7	78
3年以上～5年未満	14.5	77
5年以上～8年未満	12.1	64
8年以上～10年未満	9.4	50
10年以上～13年未満	8.3	44
13年以上～15年未満	4.3	23
15年以上	12.4	66
退職者等非該当	14.7	78
無回答	0.8	4
合計	100	531



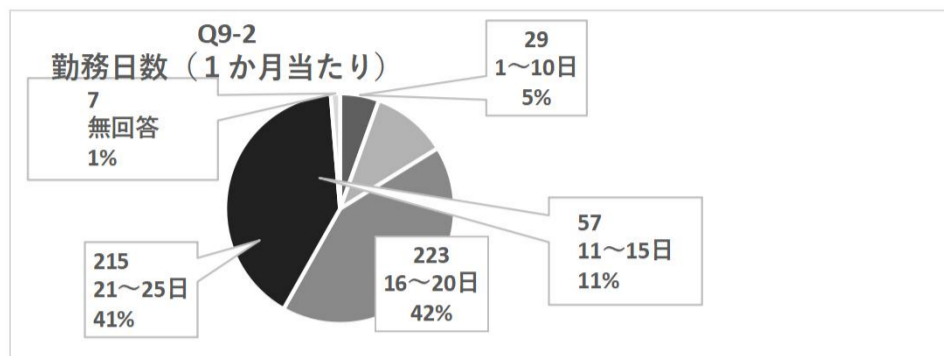
Q9-1 勤務日数/週

	%	人数
5～6日	64.2	341
3～4日	29.8	158
1～2日	4.9	26
無回答	1.1	6
合計	100	531



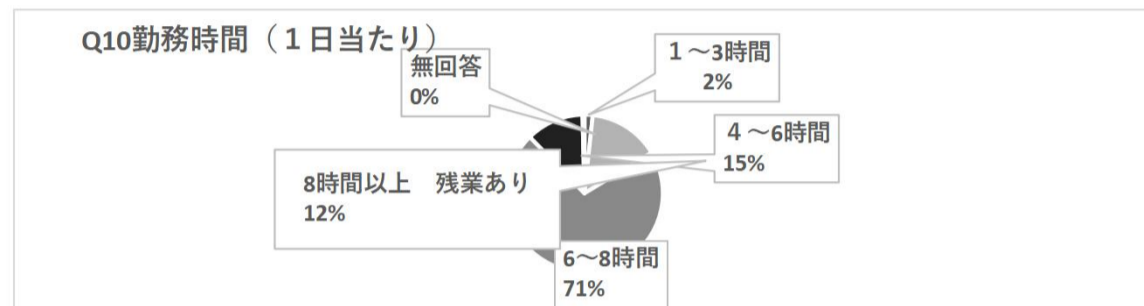
Q9-2 勤務日数/月

	%	人数
1～10日	5.5	29
11～15日	10.7	57
16～20日	42	223
21～25日	40.5	215
無回答	1.3	7
合計	100	531



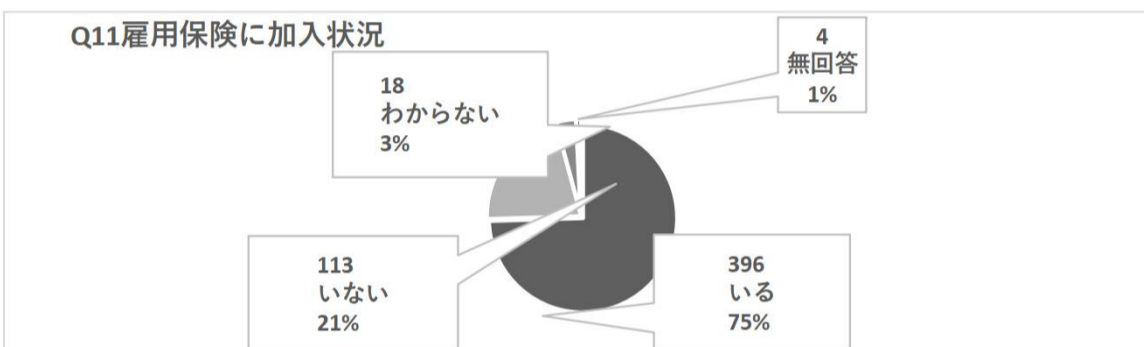
Q10 勤務時間/日

	%	n
1～3時間	1.7	9
4～6時間	14.7	78
6～8時間	71.4	379
8時間以上 残業あり	11.9	63
無回答	0.4	2
合計	100	531



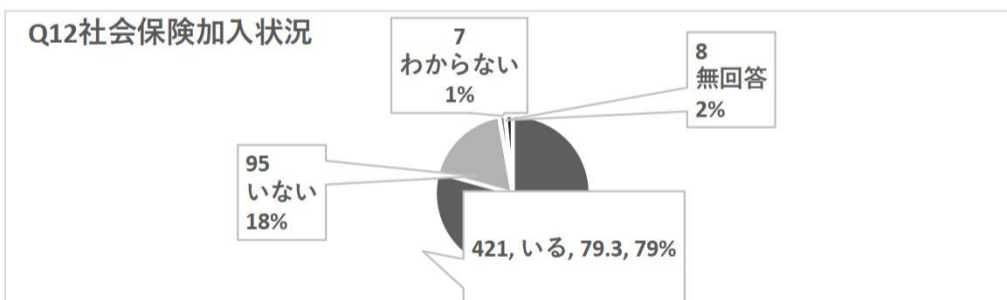
Q11 雇用保険

	%	人数
いる	74.6	396
いない	21.3	113
わからない	3.4	18
無回答	0.8	4
合計	100	531



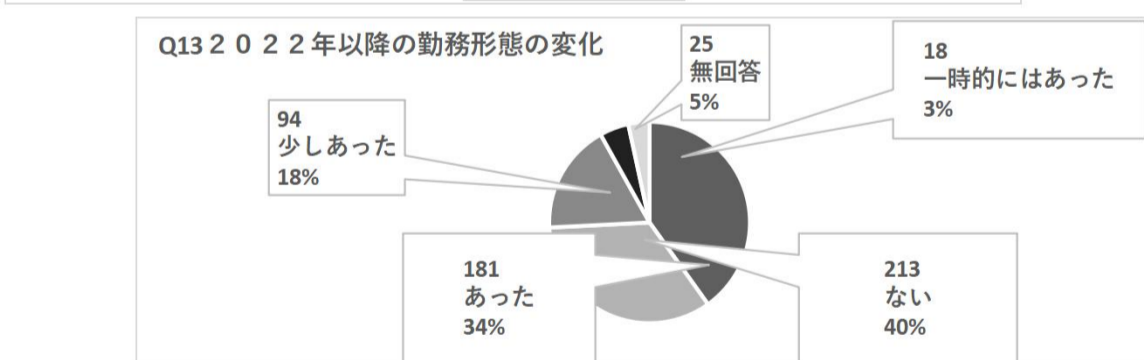
Q12 社会保険

	%	n
いる	79.3	421
いない	17.9	95
わからない	1.3	7
無回答	1.5	8
合計	100	531



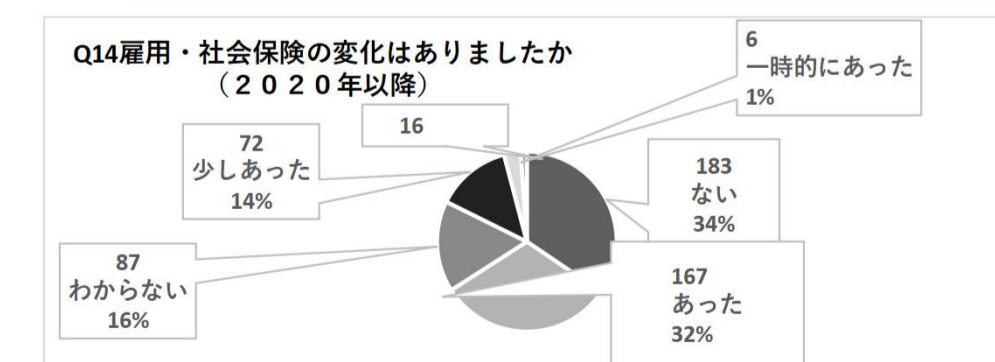
Q13. 2020年以降から勤務形態に変化がありましたか

	%	人数
ない	40.1	213
あった	34.1	181
少しあった	17.7	94
無回答	4.7	25
一時的にはあった	3.4	18
合計	100	531



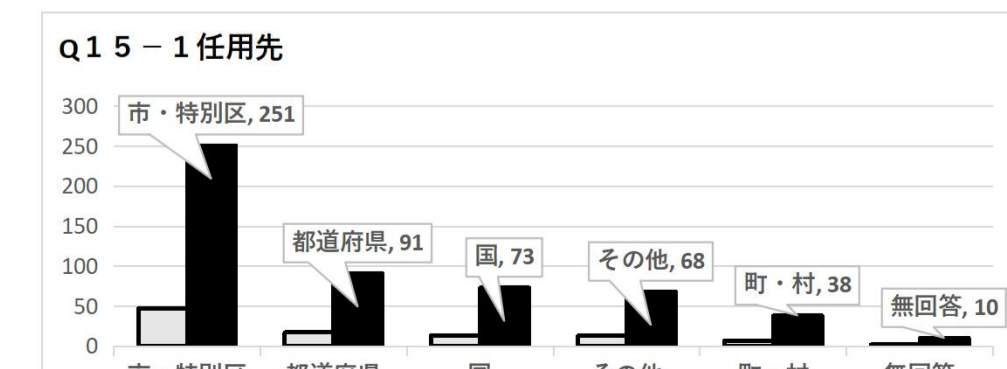
Q14. 2020年以降から雇用保険・社会保険に変化はありましたか

	%	人数
ない	34.5	183
あった	31.5	167
わからない	16.4	87
少しあった	13.6	72
無回答	3.0	16
一時的にあった	1.1	6
合計	100	531



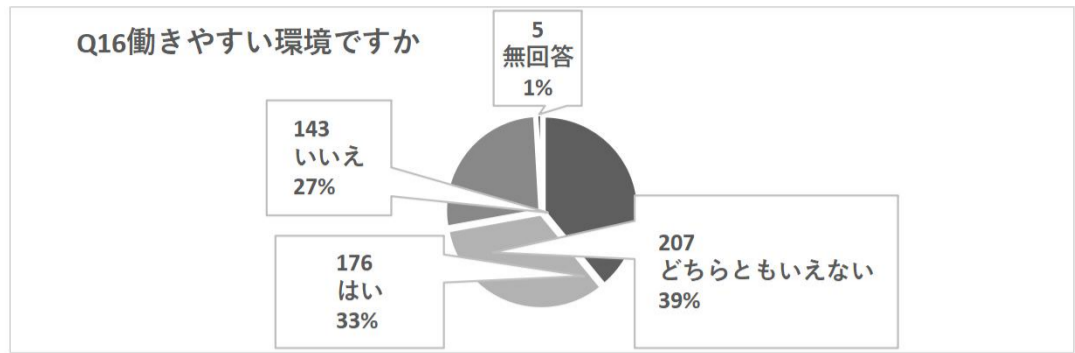
Q15-1. 任用先 (雇用主)

	%	人数
市・特別区	47.3	251
都道府県	17.1	91
国	13.7	73
その他	12.8	68
町・村	7.2	38
無回答	1.9	10
合計	100	531



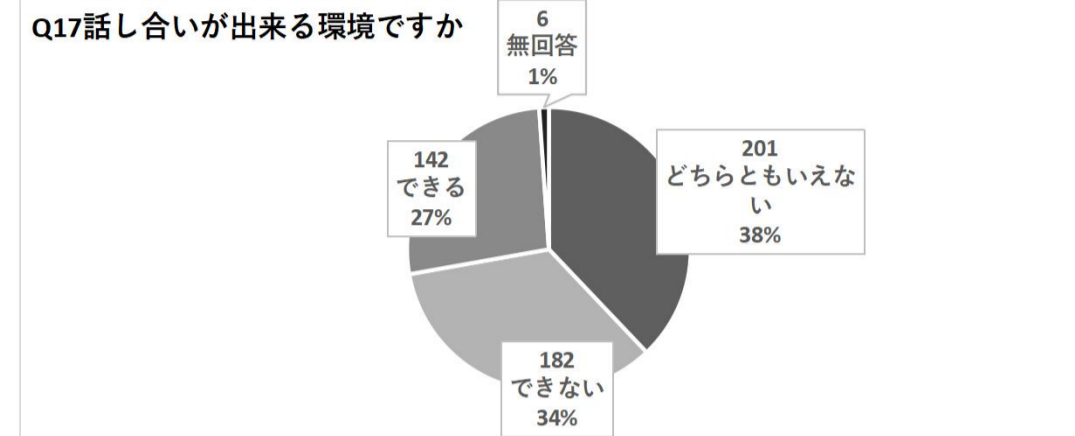
Q16. 働きやすい環境ですか

	%	人数
どちらともいえない	39	207
はい	33.1	176
いいえ	26.9	143
無回答	0.9	5
合計	100	531



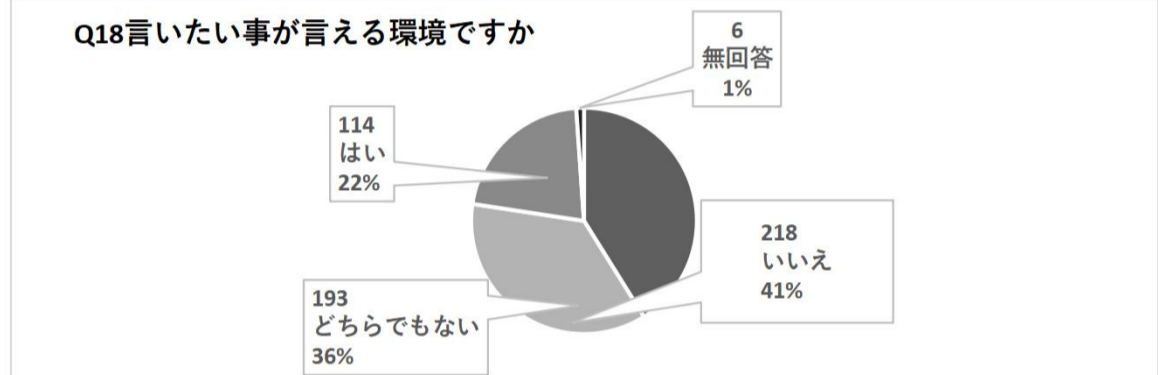
Q17. 話し合いができる環境ですか

	%	人数
どちらともいえない	37.9	201
できない	34.3	182
できる	26.7	142
無回答	1.1	6
合計	100	531



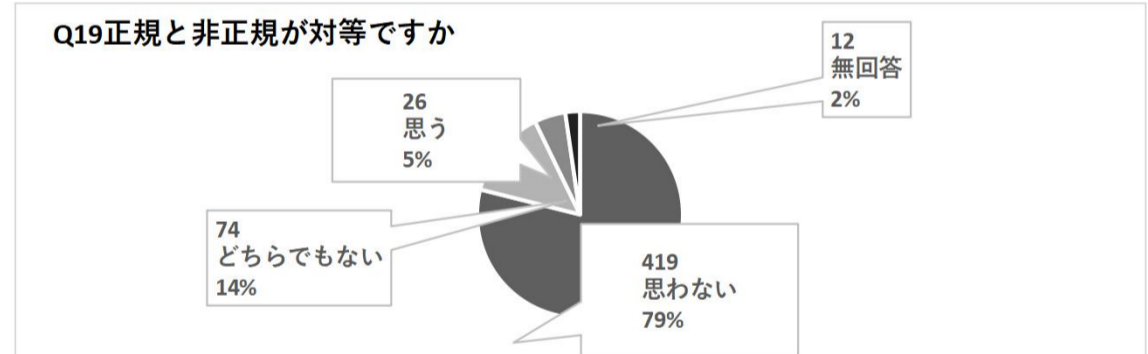
Q18. 言いたいことが言える環境

	%	人数
いいえ	41.1	218
どちらでもない	36.3	193
はい	21.5	114
無回答	1.1	6
合計	100	531



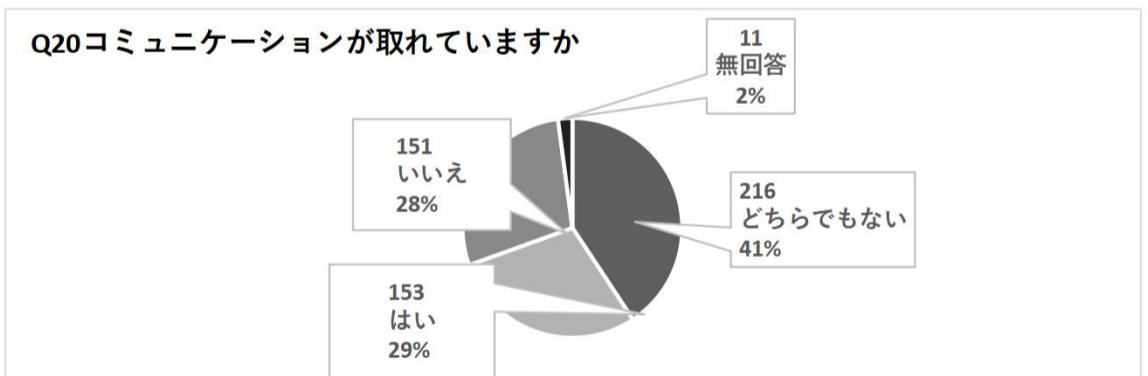
Q19. あなたの職場では、正規・非正規が対等であると思いますか。

	%	人数
思わない	78.9	419
どちらでもない	13.9	74
思う	4.9	26
無回答	2.3	12
合計	100	531



Q20. コミュニケーションがとれていますか

	%	人数
どちらでもない	40.7	216
はい	28.8	153
いいえ	28.4	151
無回答	2.1	11
合計	100	531



Q21. 以下の言葉について知っていますか

	言葉だけは知っている	意味を知っている	知らない	無回答	合計	
パワー・ハラスメント	3.8	95.1	0.2	0.9	100%	%
	20	505	1	5	531	人数
セクシュアル・ハラスメント	3.6	94.7	0.8	0.9	100%	%
	19	503	4	5	531	人数
マタニティー・ハラスメント	6	91.9	0.8	1.3	100%	%
	32	488	4	7	531	人数
パタニティー・ハラスメント	11.3	30.9	56.7	1.1	100%	%
	60	164	301	6	531	人数
SOGIハラスメント	15.8	25.2	58.2	0.8	100%	%
	84	134	309	4	531	人数

Q22. あなたの職場では、ハラスメントについての研修が行われていますか？

	%	人数
ない	41.2	219

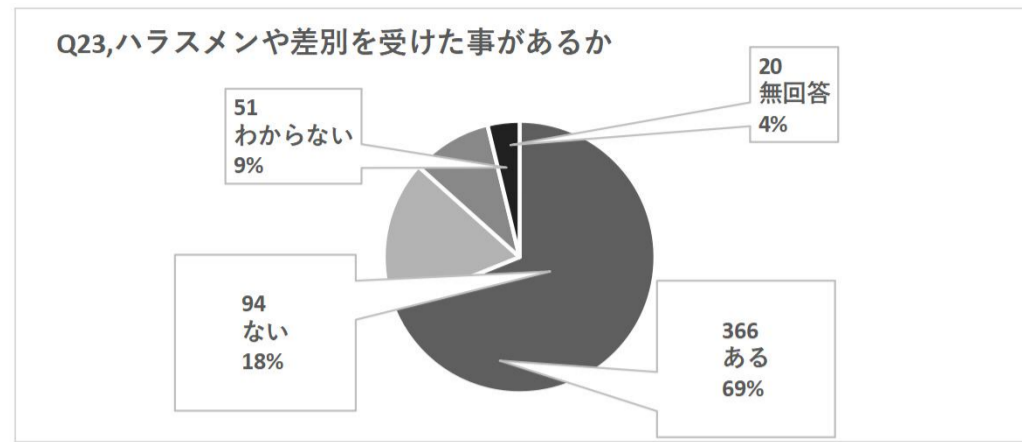
Q22・SQ1 「あった」場合 あなたは参加できましたか
% 人数

あった	35	186
わからない	20.5	109
無回答	3.2	17
合計	100	532

できた	80.1	157
できなかった	18.4	36
無回答	1.5	3
合計	100	196

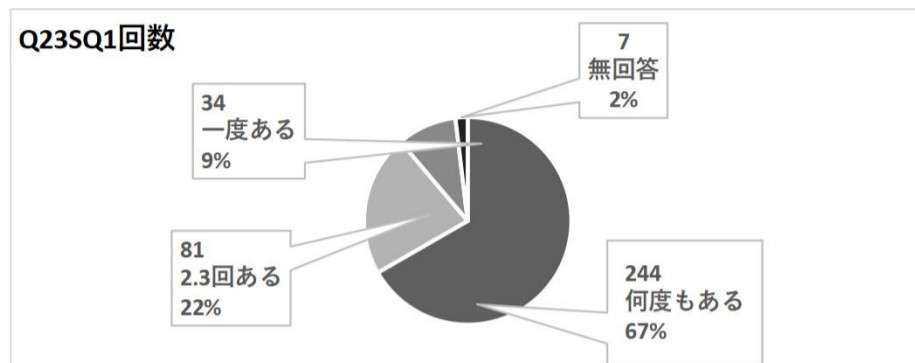
Q23 あなたは非正規公務員として働いてきた中でハラスメントや差別を受けたことがありますか。

	%	人数
ある	68.9	366
ない	17.7	94
わからない	9.6	51
無回答	3.8	20
合計	100	531



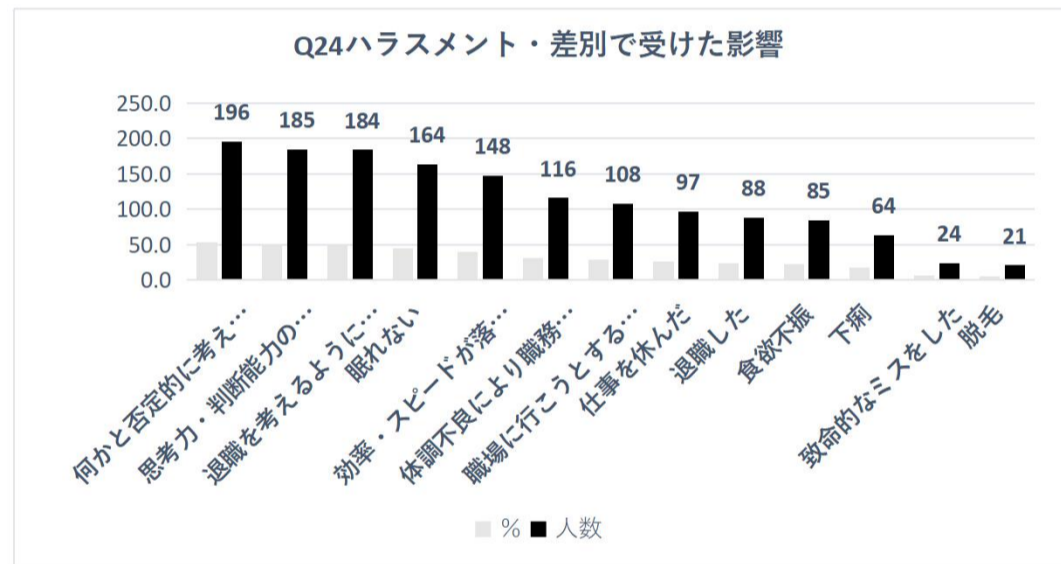
Q23 SQ1. ハラスメントや差別を受けたことがある、という方にお聞きます。非正規公務員の在職中に受けた回数を教えてください。

	%	人数
何度もある	66.7	244
2.3回ある	22.1	81
一度ある	9.3	34
無回答	1.9	7
合計	100	366



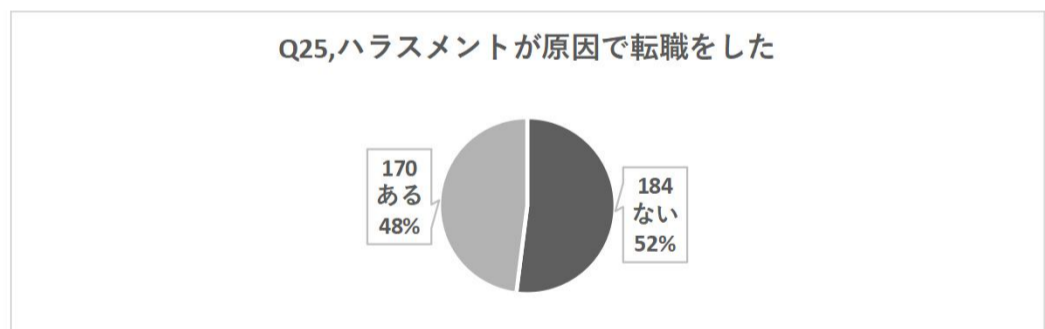
Q24. ハラスメントや差別を受けた影響であなたに起きたことをすべて選んでください。(複数回答)

	%	人数
何かと否定的に考えるようになった	53.6	196
思考力・判断能力の低下	50.5	185
退職を考えるようになった	50.3	184
眠れない	44.8	164
効率・スピードが落ちた	40.4	148
体調不良により職務が遂行できなくなった	31.7	116
職場に行こうとすると頭痛・腹痛などが起きる	29.5	108
仕事を休んだ	26.5	97
退職した	24.0	88
食欲不振	23.2	85
下痢	17.5	64
致命的なミスをした	6.6	24
脱毛	5.7	21



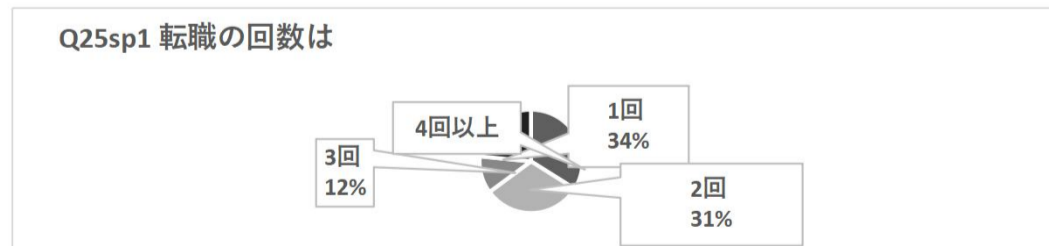
Q25. ハラスメントや差別が原因で転職をしたことがありますか

	%	人数
ない	52.0	184
ある	48.0	170
合計	100	354



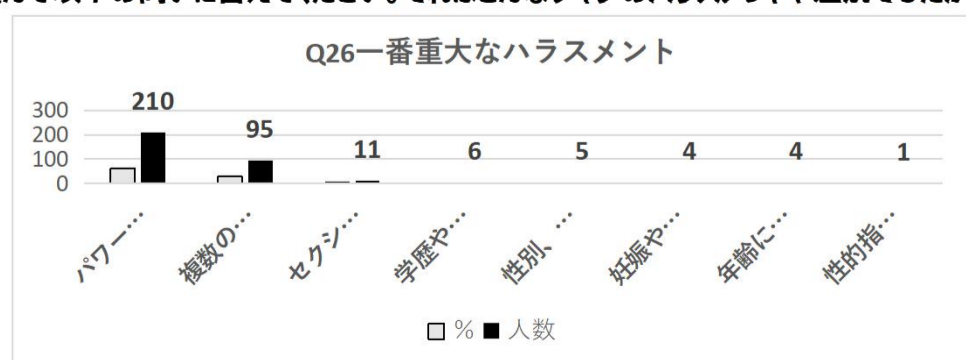
Q25 SQ1 転職をしたと回答された方にお聞きます。転職回数を教えてください

転職の回数	%	人数
1回	34.3	58
2回	31.4	53
3回	11.8	20
4回以上	23.7	40
合計	100	169



Q26 ここからは、今まで受けた中でいちばん重大なハラスメントや差別を、1つだけ選んで以下の問いに教えてください。それはどんなタイプのハラスメントや差別でしたか

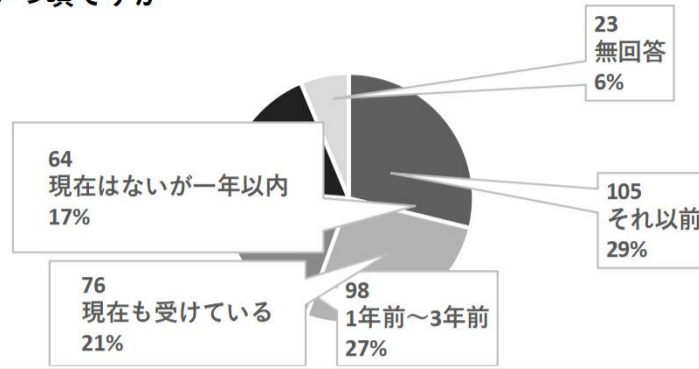
	%	人数
パワー・ハラスメント (非正規を理由としたもの)	62.5	210
複数のハラスメントが合わさったもの	28.3	95
セクシュアル・ハラスメント (ストーキング含む)	3.3	11
学歴や出身校などによる差別	1.8	6
性別、国籍、民族、出身地などに基く差別	1.5	5
妊娠や出産に関わるハラスメント	1.2	4
年齢に基づくいじめや差別	1.2	4
性的指向や性自認にかかわるハラスメント	0.3	1
合計	100	336



Q27. そのハラスメントや差別を受けたのはいつ頃のことですか

	%	人数
それ以前	28.9	105
1年前～3年前	26.8	98
現在も受けている	20.8	76
現在は無いが一年以内	17.5	64
無回答	6.3	23
合計	100	366

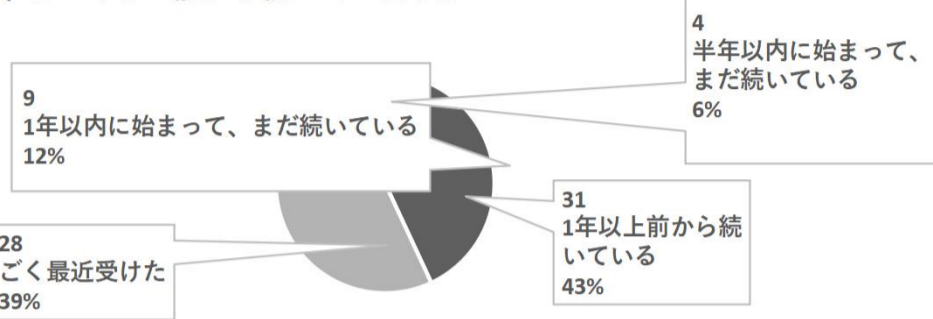
Q27,それはいつ頃ですか



Q27 SQ1. 「現在も受けている」の方は、どのくらい前から続いていますか

	%	人数
1年以上前から続いている	43.1	31
ごく最近受けた	38.9	28
1年以内に始まって、まだ続いている	12.5	9
半年以内に始まって、まだ続いている	5.6	4
合計	100	72

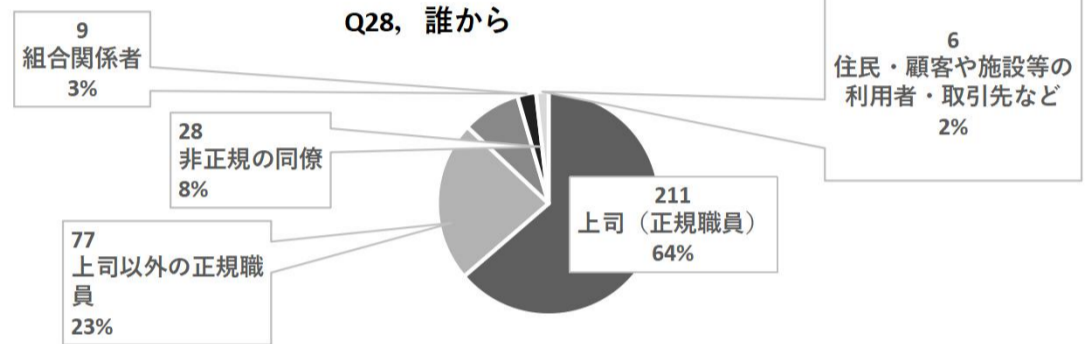
Q27SQ1どのくらい前から続いていますか



Q28 誰から

	%	人数
上司（正規職員）	63.7	211
上司以外の正規職員	23.3	77
非正規の同僚	8.5	28
組合関係者	2.7	9
住民・顧客や施設等の利用者・取引先など	1.8	6
合計	100	331

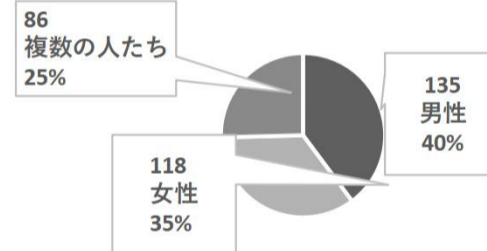
Q28, 誰から



Q29. その人の性別は

	%	人数
男性	39.8	135
女性	34.8	118
複数の人たち	25.4	86
合計	100	339

Q29, 性別は



Q30. そのことについて誰かに相談をしましたか

	%	人数
した	64.8	221
していない	35.2	120
合計	100	341

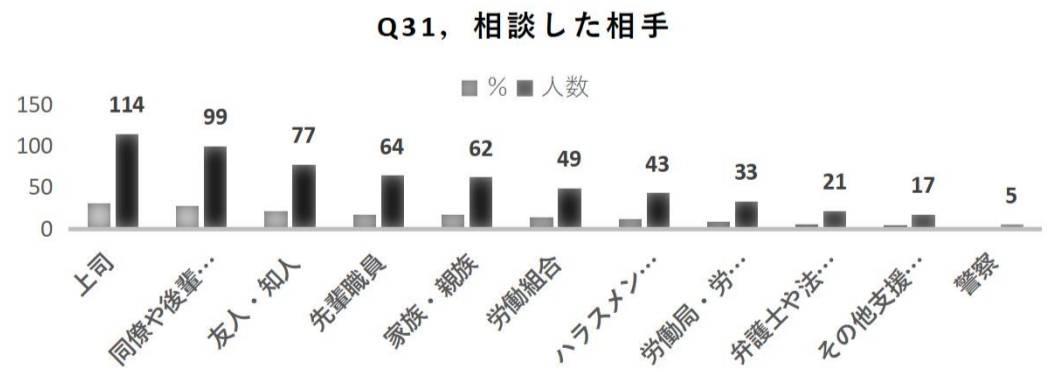
Q30, 誰かに相談をしましたか



Q31 誰に相談しましたか。あてはまるものすべてを選んでください（複数回答）

	%	人数
上司	31.1	114
同僚や後輩職員	27	99
友人・知人	21	77
先輩職員	17.4	64
家族・親族	16.9	62
労働組合	13.4	49
ハラスメント相談窓口・相談員	11.7	43
労働局・労基署など	9	33
弁護士や法律相談	5.7	21
その他支援団体	4.6	17
警察	1.4	5

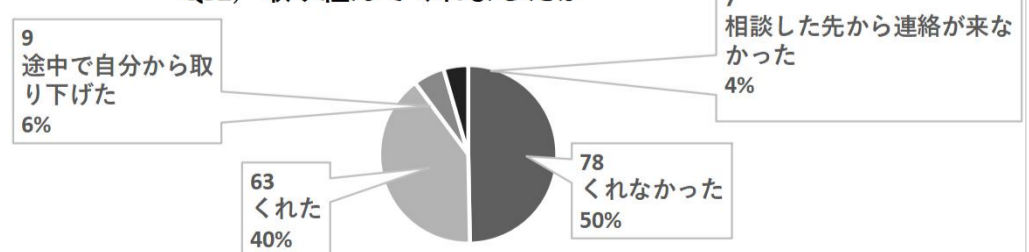
Q31, 相談した相手



Q32 相談した相手は取り組んでくれましたか。

	%	人数
くれなかった	49.7	78
くれた	40.1	63
途中で自分から取り下げた	5.7	9
相談した先から連絡が来なかった	4.5	7
合計	100	157

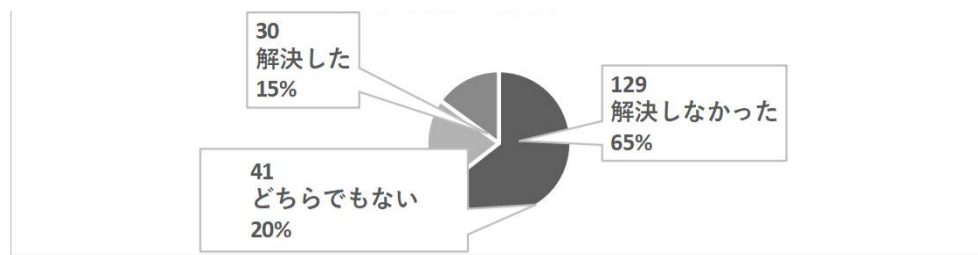
Q32, 取り組んでくれましたか



Q33. その問題は解決しましたか

	%	人数
解決しなかった	64.5	129
どちらでもない	20.5	41
解決した	15	30
合計	100	200

Q33, 問題は解決しましたか

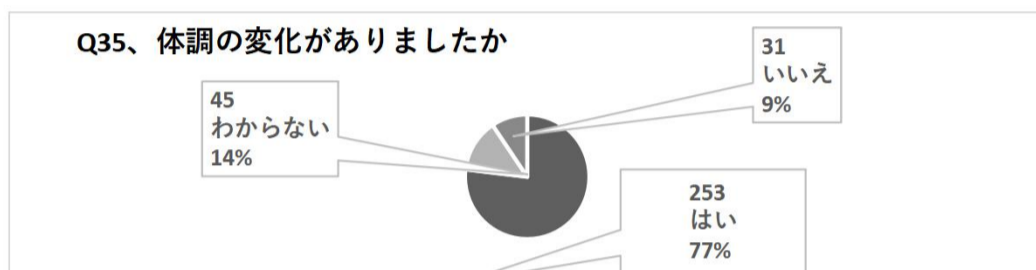


Q34. その「一番重大なハラスメント（や差別）」を受けている時にあなたが感じたことや起こったことについてお聞きます。

	当てはまる	少し当ては	あてはまらない	計	
職場で孤独を感じた	63	19.3	17.7		%
	206	63	58	327	人数
職場で恥や引け目を感じた	53.2	23.2	23.5		%
	174	76	77	327	人数
ハラスメントを受けるのは、自分が悪い・自分の	17.5	27.9	54.6		%
	57	91	178	326	人数
職場の人たち全体への不信感が生まれた	63.5	24.5	12		%
	207	80	39	326	人数
仕事のモチベーションが下がった	77.9	16.7	5.5		%
	257	55	18	330	人数

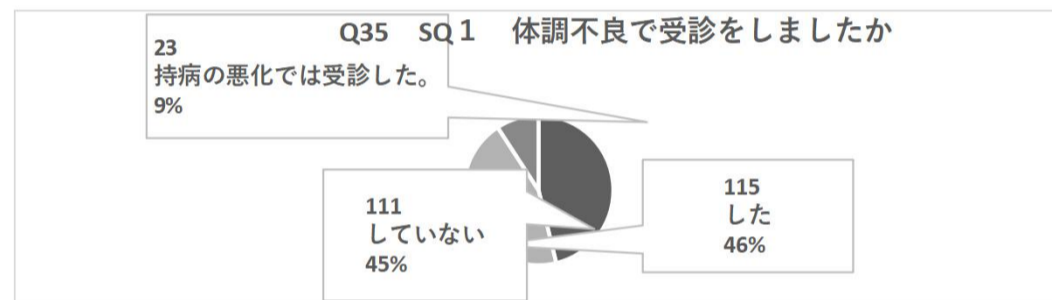
Q35 ハラスメントを受けて体調に変化が悪化することがありましたか

	%	人数
はい	76.9	253
わからない	13.7	45
いいえ	9.4	31
合計	100	329



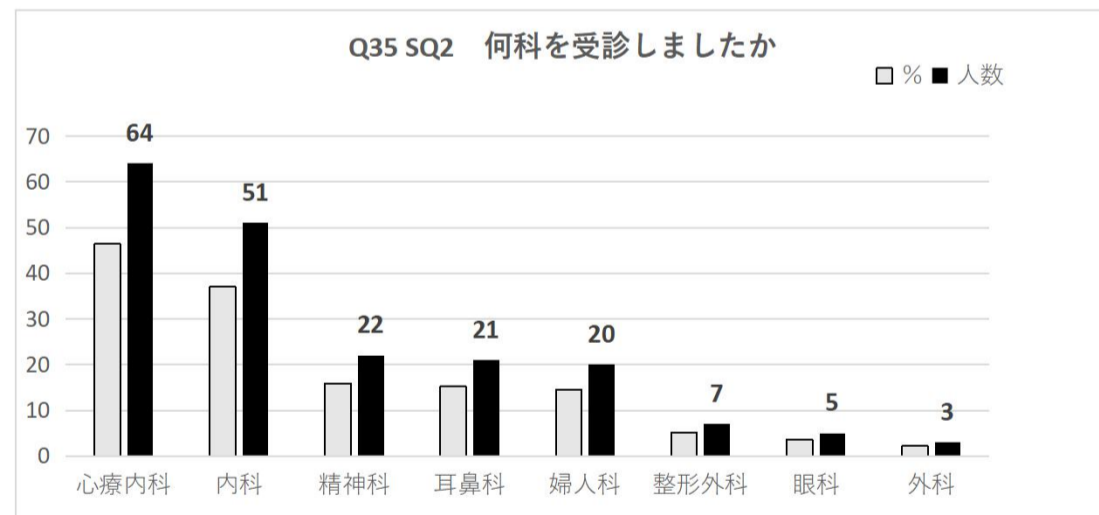
Q35 SQ1「はい」と答えた方にお聞きます。体調不良で病院に受診しましたか？

	%	人数
した	46.2	115
していない	44.6	111
持病の悪化では受診した。	9.2	23
合計	100	249



Q35 SQ2受診をした方は何科を受診しましたか？（複数回答）

138人中の		
	%	人数
心療内科	46.4	64
内科	37	51
精神科	15.9	22
耳鼻科	15.2	21
婦人科	14.5	20
整形外科	5.1	7
眼科	3.6	5
外科	2.2	3
皮膚科	7.2	10

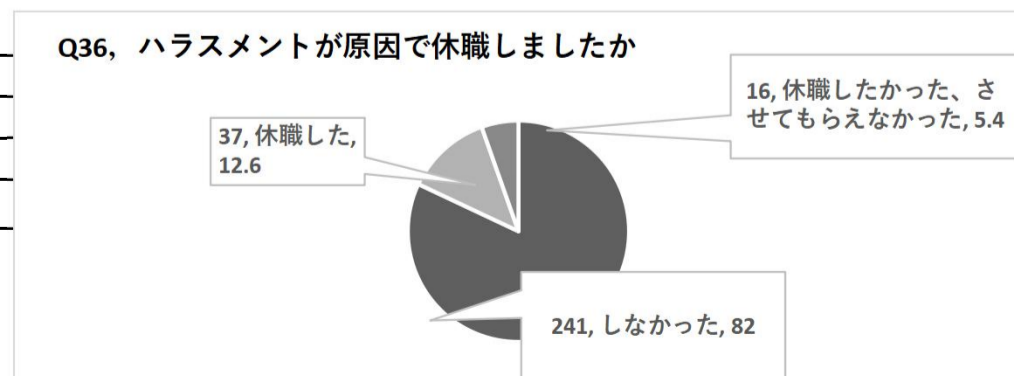


Q35 SQ3 受診をされて何らかの診断が出ましたか？

138人中の		
	%	(366人中 n)
出た	60.9	23.0%
出なかった		
合計		115

Q36 そのハラスメントや差別が原因で休職しましたか？

	%	人数
しなかった	82	241
休職した	12.6	37
休職したかった、させてもらえなかった	5.4	16
合計	100	294



Q36 SQ1 休職したのは何回ですか

	%	人数
1回	62.2	23
2~5回	37.8	14
合計	100	37

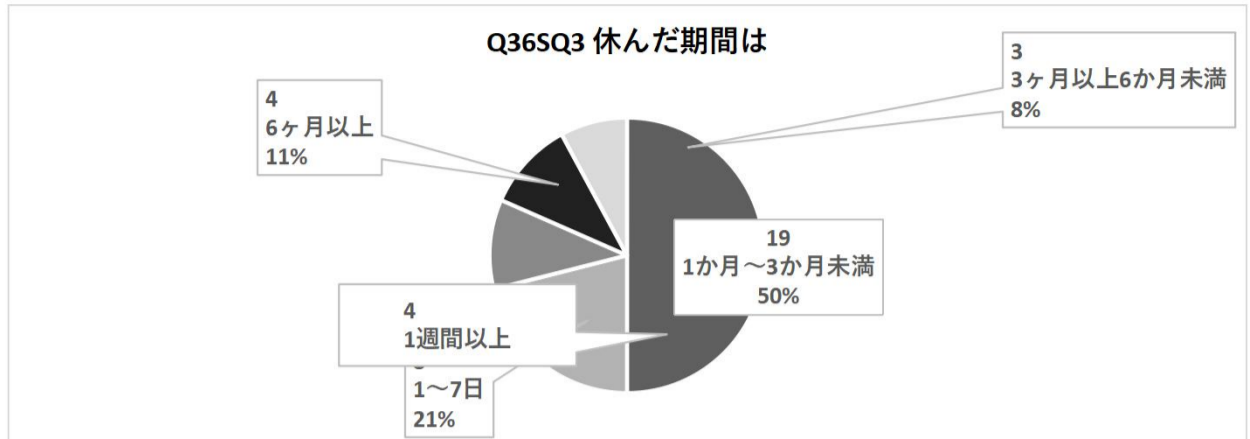
Q36 SQ2休職をした方にお聞きます。休職形態は何ですか？

有給（診断書無し）	6
病休（有給）診断書無し	1
病休（有給）診断書あり	10
病休（傷病手当あり）	16
病休（傷病手当なし）	3
合計	36

Q36 SQ3 休んだ期間を教えてください。

人数

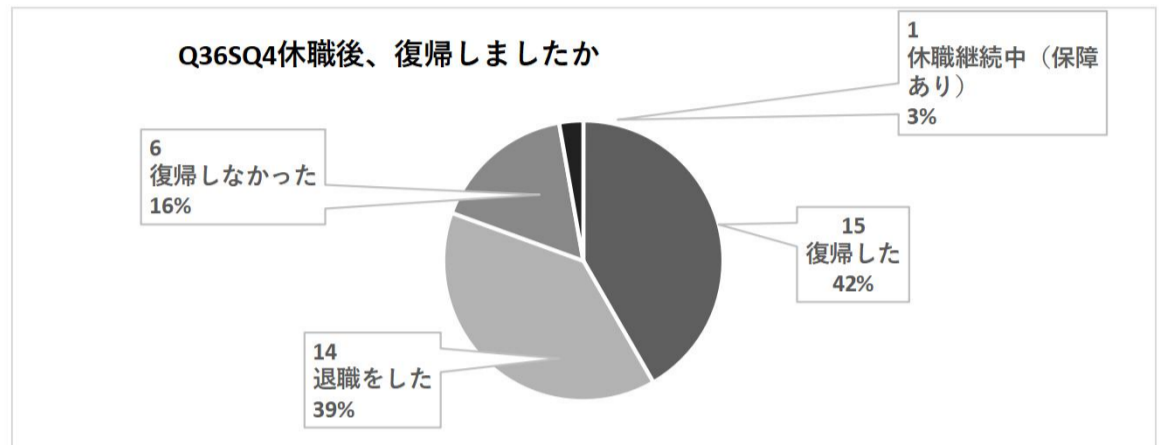
1か月～3か月未満	19
1～7日	8
1週間以上	4
6ヶ月以上	4
3ヶ月以上6か月未満	3
合計	38



Q36・SQ4 休職後、復帰しましたか

人数

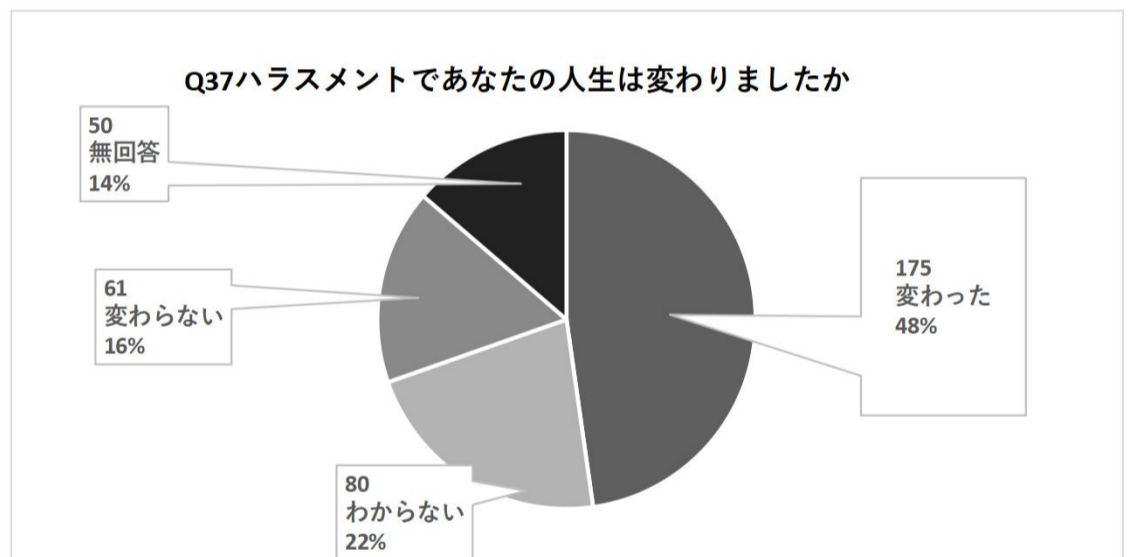
復帰した	15
退職をした	14
復帰しなかった	6
休職継続中（保障あり）	1
合計	36



Q37 ハラスメントや差別を受けた事で、あなたの人生は変わりましたか

% 人数

変わった	47.8	175
わからない	21.9	80
変わらない	16.7	61
無回答	13.7	50
合計	100	366

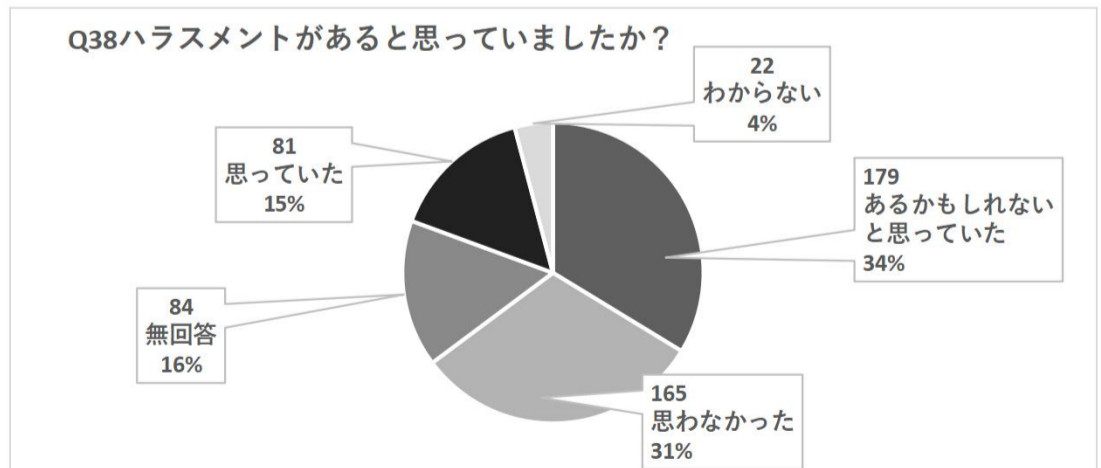


セクション4 ここからは、皆さんにおききます。

Q38 入職時、公務職場にハラスメントや差別が存在すると思っていましたか

% 人数

あるかもしれないと思っていた	33.7	179
思わなかった	31.1	165
無回答	15.8	84
思っていた	15.3	81
わからない	4.1	22
合計	100.0	531



(A群) 以下の中で、されたことがあるものをすべて選んで下さい。(パワー・ハラスメント)

% 人数

仕事のやり方について何も教えてもらえなかった	28.1	149
納得できない理由でやった仕事について否定された	27.7	147
人格を否定される言動があった	27.5	146
仕事上大切な情報をわざと教えてもらえなかった	26.4	140
必要以上に叱責された	23.9	127
他人のミスを自分のせいにかされた	18.5	98
できない量の量や内容の仕事をするように指示された	18.1	96
聞こえる様に悪口をいわれた	17.5	93
仲間外しをされた	16.0	85
自分にだけ仕事を与えてもらえなかった	15.4	82
舌打ちをされた	13.7	73
目の前で机や物にあたり威嚇された	13.5	72
悪い噂を流された	13.4	71
ミスをみんなの前で笑いものにされた	12.4	66
仕事とは関係なことにつきあわなければならなかった	8.9	47
お菓子・弁当外しをされた	7.3	39
法令違反にあたるようなことをやるように命じられた	7.0	37
作った書類などに大きく×を書かれたり、全部真っ赤	6.6	35
学歴や出身校のことで馬鹿にされた	6.2	33
失礼な呼び方やあだ名で呼ばれた	6.2	33
指を指して叱責された	5.5	29
席を遠く・または近すぎる位置に移動された	4.3	23
攻撃的なメールを送られた	3.4	18
物を投げつけられた	3.2	17
不自然にぶつかってきた		0

蹴られた	0.9	5
胸ぐらをつかまれた	0.9	5
殴られた	0.6	3
正座させられ説教された	0.4	2
土下座して謝罪させられた	0.2	1
腕立て伏せや腹筋を強要された		0
事実ではないのに「ハラスメント加害者」と言われた	3.6	19

(B群) 以下の中で、仕事の関係者(顧客も含む)から、されたことがあり、いやだ、そんなことはされたくないと感じたものを選んで下さい。
(セクシュアル・ハラスメント)

	%	人数
私生活を詮索されたり、恋人の有無を尋ねられた	16.0	85
年齢、容姿、服装に関する話題がよく出された	15.4	82
「女のくせに」「男のくせに」などと性別に結び付けて批判された	10.4	55
飲み会などでお酌を強要されたり、異性の隣に座らされたりした	10.0	53
性的な話題を聞かされた	6.6	35
飲み会などで、下品な行為をさせられたり、見せられたりした	5.3	28
あなたの性体験や性関係に関することを話題にされた	4.0	21
気持ち悪い性的な内容のSNSメッセージや、ショートメール、メールなどが送られてきた	3.2	17
望まないのに抱きつかれたり、身体を触られたり、キスをされたりした	2.6	14
しつこく交際を求められたり、私的な電話やメールをされたりした	1.5	8
性行為に誘われた	1.3	7
トイレや更衣室を覗かれたり、盗撮されたりした	0.9	5
無理やり性行為をされた	0.8	4

Q39C. 妊娠・出産の経験のある方にお聞きします。

以下の中で、仕事の関係者(顧客も含む)から、されたことがあるものをすべて選んで下さい

	人数
妊娠・出産・育児に関する休みを取ると「休みを取りすぎ」批判されたり、否定的な態度を取られた	15
会社に妊娠したことで、直接的に解雇するようなことをしなくても、自ら退職をすよう迫られたり、そうせざるを得ない状況に追い込まれた	14
「休暇を取るせいでみんなの仕事が大変になって迷惑している」などと言われた	13
妊娠したため仕事の内容の一部を免除してもらったところ、周囲から嫌味を言われた	9
仕事を休んで妊婦検診に行こうとすると、「会社が休みの日に行けないのか？」と言われた	7
産前産後休業や育児休業などを取得しようとする、会社を辞めるように言われた	7
期間を定めて雇用されているところ、妊娠・出産をすると「契約の更新をしない」などと言われた	6
減給や不利益な評価・不利益な配置転換・就業環境をされた	5
入社してすぐに妊娠するのはおかしいと言われた	4

男性で育休を取った人

0

	ある	ない	未回答	合計	
性的マイノリティや、男らしくない／女らしくない人に対して、嘲笑したり、差別的な呼称(オカマ、オナベ 気持ち悪い、など)で呼んだりすること。	18.6%	54.6	26.7	100%	
	99	290	142	531	人数
個人の性的指向や性自認をからかったり、噂したりすること。	12.6%	60.3	27.1	100%	
	67	320	144	531	人数
同性愛やトランスジェンダーなどの性的マイノリティであるという理由だけで、劣っているとか、望ましくない人物と決めつけること	8.7	62.7	28.6	100%	
	46	333	152	531	人数
性的マイノリティについて、いじめやからかいの対象とすること。	10.9%	60.9	28.2	100%	
	58	323	150	531	人数
個人の性自認や性的指向などを、本人の許可なく他人に暴露したり、広めたりすること	8.5	63.3	28.2	100%	
	45	336	150	531	人数
セクシュアル・マイノリティの当事者が自認する性別、希望する性別での扱いを職場で許可しないこと	4.5	65.3	29.9	100%	
	24	347	160	531	人数
男らしい／女らしくない振る舞いや服装であることを否定的に評価したりすること	17.5%	53.7	28.8	100%	
	93	285	153	531	人数

セクション5 会計年度任用職員制度の評価、雇用継続や「公募」について

Q42. 非正規雇用であることに関わって、以下のようなことを経験したことがありますか。

	ある	ない	無回答	合計	
正規職の仕事を任された	49.3%	24.1	26.6	100%	
	260	127	140	527	人数
仕事に必要な情報を（非正規だから）教えてもらえない	40	34.3	25.6	100%	
	211	181	135	527	人数
「非正規さん」・「会計さん」・「非常勤さん」・「臨職さん」などと呼ばれる	35.3	38	26.8	100%	
	186	200	141	527	人数
何かと非正規だからと言われる	33	39.5	27.5	100%	
	174	208	145	527	人数
会議資料・研修資料が渡されないことはある	27.9	45.1	27	100%	
	147	237	142	526	人数
仕上げた仕事を正規職に取られた	27.5	43.3	28.4	100%	
	146	230	151	527	人数
会議やミーティングがある事を知らされない	26.4	47.2	26.4	100%	
	139	249	139	527	人数
仕事に必要な資格を自費で取得しました	23.7	49.9	26.4	100%	
	125	263	139	527	人数
業務に必要とされる研修を非正規だから自費で行かなければならないことがあった	19.4	54.5	26.2	100%	
	102	287	138	527	人数
職員や市民の前で怒鳴られる	15.2	57.9	26.9	100%	
	80	305	142	527	人数
非正規を理由に歓送迎会等の課の行事に参加できなかった	13.3	58.4	28.3	100%	
	70	308	149	527	人数
自分だけ、明らかにシフトを減らされる	7.2	65.3	27.5	100%	
	38	344	145	527	人数

Q43. 勤務評価などについてお答え下さい。

	はい	いいえ	無回答	合計	
評価基準があいまいだと感じる	57.0%	17.3	25.7	100%	
	300	91	135	527	人数
業務成績の数字の良し悪しで、雇止めを感じる圧力を感じた	24.5%	51.6	23.9	100%	
	129	272	126	527	人数
評価結果について上司に尋ねることが出来る	21.7	51.5	26.8	100%	
	114	271	141	527	人数
評価が自分に開示される仕組みになっている	21.3	52.8	26	100%	
	112	278	137	527	人数
勤務評価を下げられた	16.3	56.7	26.9	100%	
	86	299	142	527	人数

Q.44 会計年度任用職員制度になり住民サービスの低下を感じますか

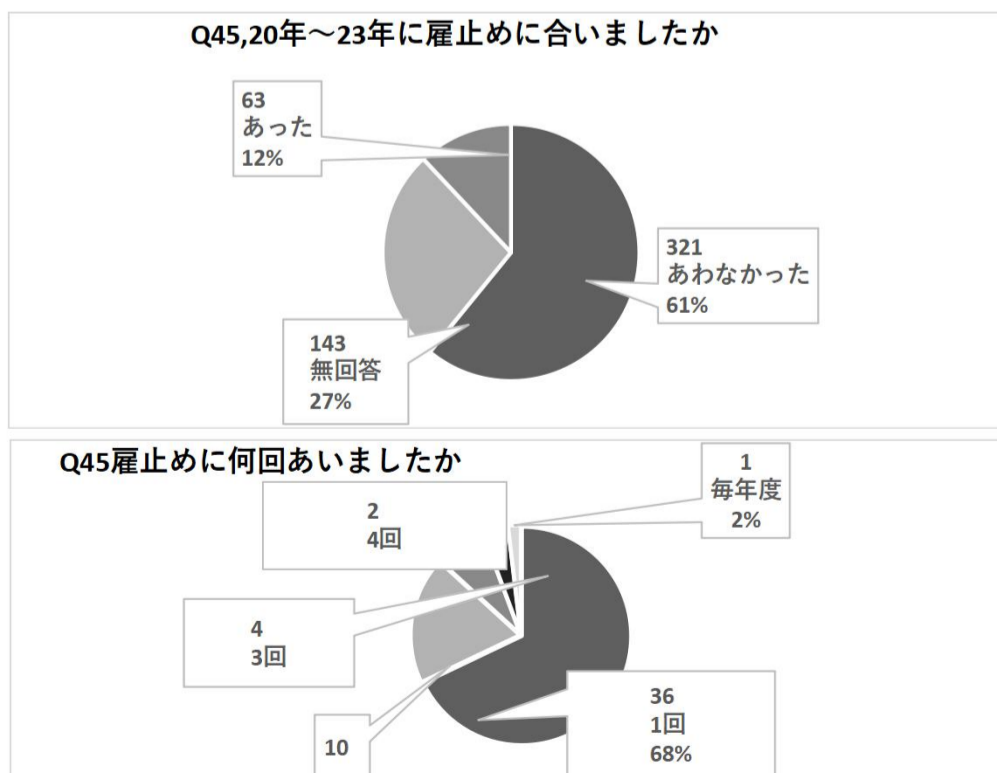
	%	人数
感じる	19.7	104
やや感じる	9.5	50
どちらともいえない	19.2	101
感じない	4.7	25
わからない	21.8	115
無回答	25	132
合計	100	527

Q45. 2020年～2023年にかけてあなたは雇止めにあいましたか

	%	人数
あわなかった	60.9	321
無回答	27.1	143
あった	12	63
合計	100	527

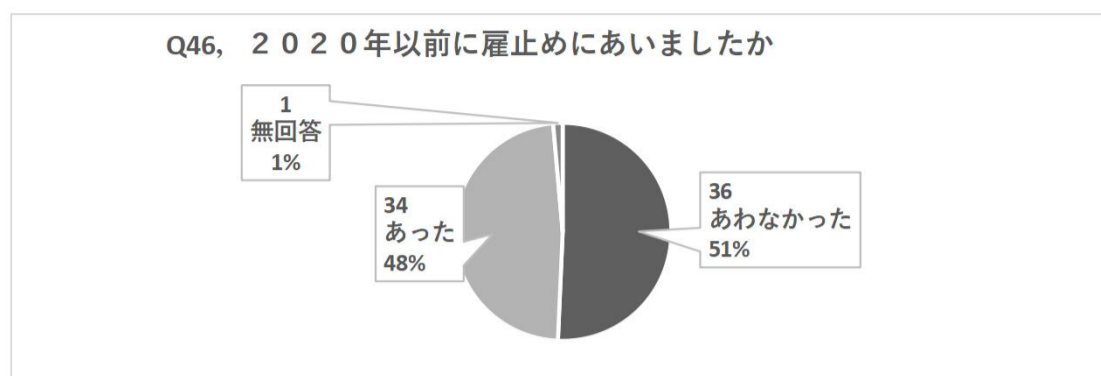
Q45SQ1「雇い止めにあった」方は、何回、雇止めにあいましたか？

	人数
1回	36
2回	10
3回	4
4回	2
毎年度	1



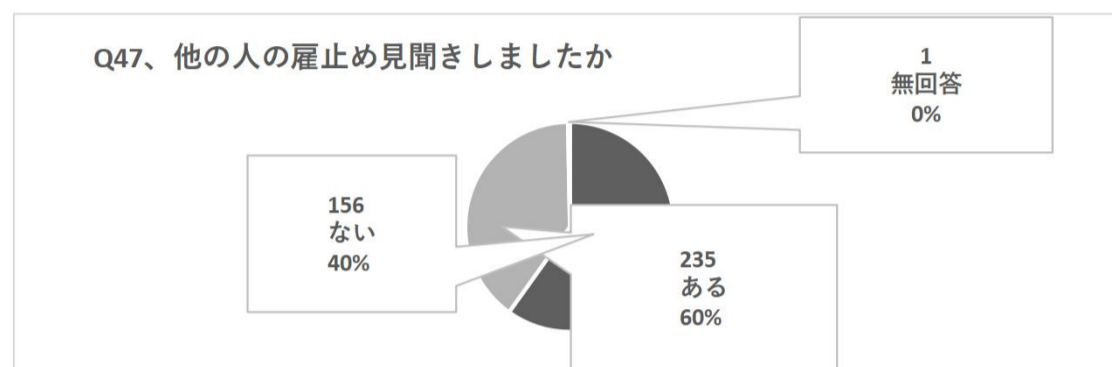
Q45 SQ2 雇い止めに納得できましたか？	%	人数
できた	5.5	3
できなかった	94.5	52
無回答	0	0
合計	100	55

Q.46 2020年以前に雇い止めにあいましたか	%	人数
あわなかった	50.7	36
あった	47.9	34
無回答	1.4	1
合計	100	71



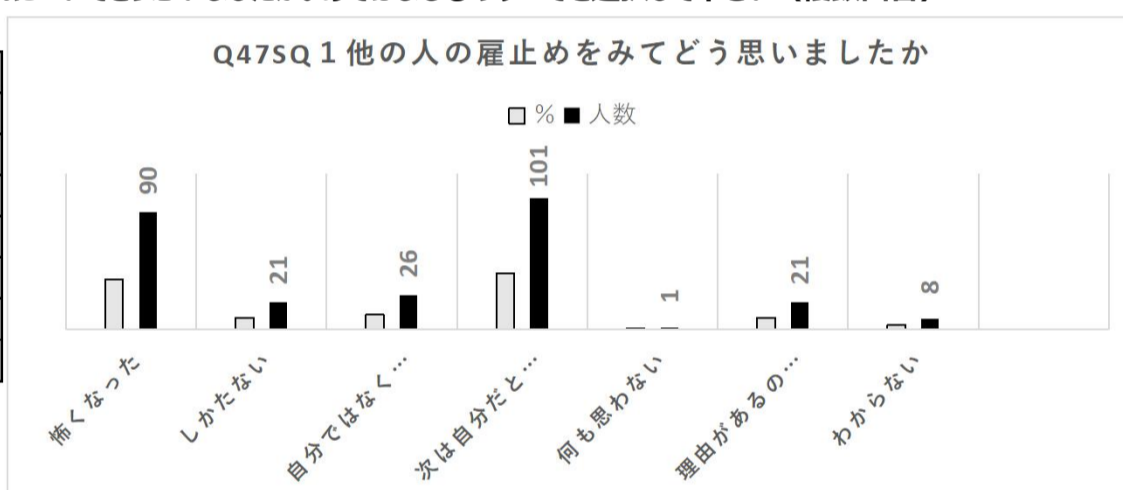
Q46 SQ2 雇い止めに納得できましたか？	%	人数
できた	6.3	2
できなかった	93.8	30
合計	100	32

Q47 他の人が雇い止めにあうことを見聞きすることはありましたか	%	人数
ある	59.9	235
ない	39.8	156
無回答	0.3	1
合計	100	392



Q47 SQ1 他の人が雇い止めにあったことを見聞きした方に伺います。それについてどう思いましたか。あてはまるものすべてを選択して下さい（複数回答）

	%	人数
悔しい・腹が立った	64.3	151
怖くなった	38.3	90
しかたない	8.9	21
自分ではなくてほっとした	11.1	26
次は自分だと思った	43.0	101
何も思わない	0.4	1
理由があるので問題とは思っていない	8.9	21
わからない	3.4	8

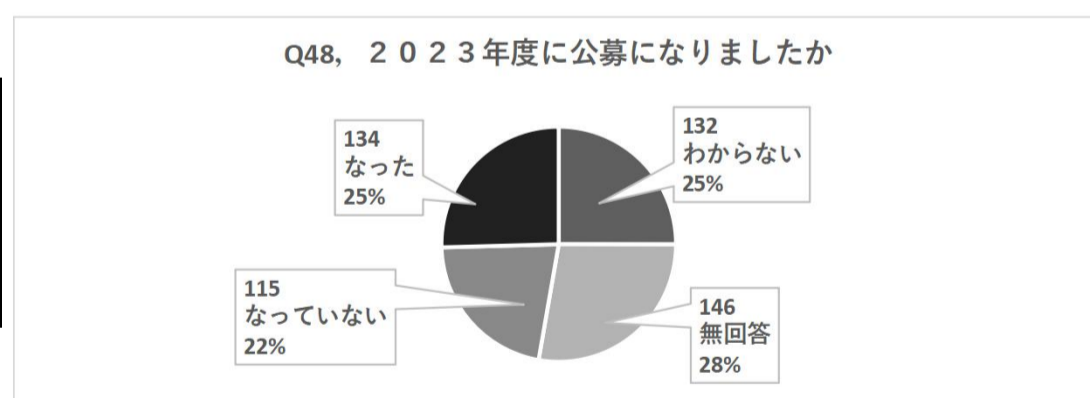


全員にお尋ねします。2022年度で会計年度任用職員制度の開始から3年がたちました。

「公募によらない再度の任用を、3年」と定めているところでは、3年過ぎた時点で公募が開始されることが考えられます。そこで、2023年度の「公募」について教えてください。

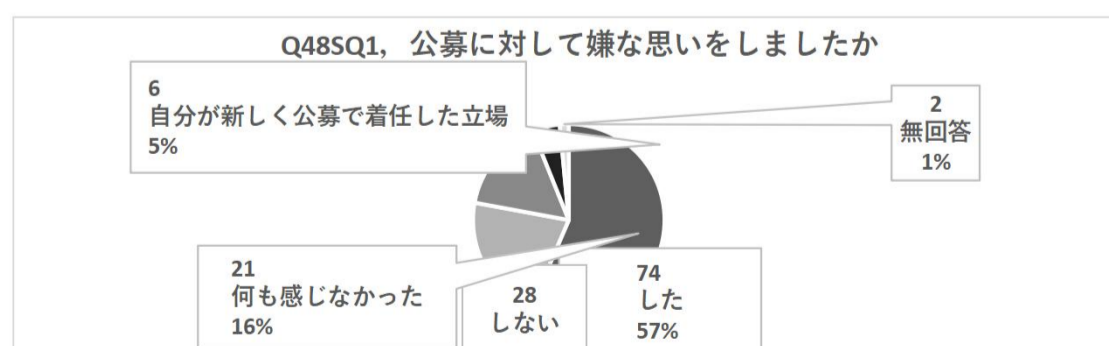
Q48 あなたが就いていた職は、2023年度に公募になりましたか。

	%	人数
わからない	25.0	132
無回答	27.7	146
なっていない	21.8	115
なった	25.4	134
合計	100.0	527



Q48 SQ1.「なった」と答えた方にお聞きします。公募に対して嫌な思いをしましたか。

	%	人数
した	56.5	74
しない	21.4	28
何も感じなかった	16	21
自分が新しく公募で着任した立場	4.6	6
無回答	1.5	2
合計	100	131



Q48 SQ2 公募に関して「嫌な思いをした」方に伺います。嫌と思った理由を教えてください。（複数回答）

	人数
結果が出るのが遅い	33
雇止めの為の公募だった	25
公募の制度が嫌	26
面接の内容が嫌だった	27



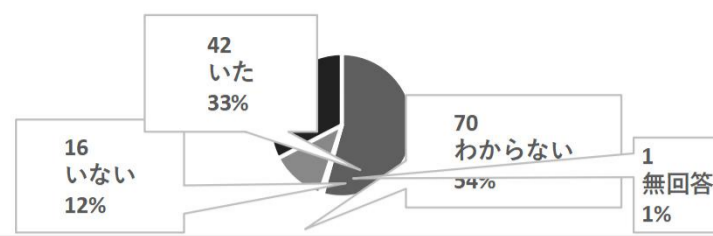
公募の制度が嫌
23%

った
23%

Q48 SQ3 公募される前に採用される人が決まっていたか

	%	人数
わからない	54.3	70
無回答	0.7	1
いない	12.4	16
いた	32.6	42
合計	100	129

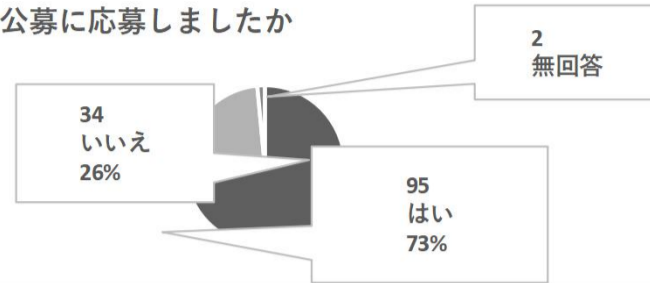
Q48SQ3, 公募前に採用される人が決まっていたか



Q48 SQ4 あなたはその公募に応募しましたか

	%	人数
はい	72.5	95
いいえ	26	34
無回答	1.5	2
合計	100	131

Q48SQ4, その公募に応募しましたか



Q48 SQ5 「いいえ」の方に伺います。理由は何ですか？(複数回答)

	人数
待遇・環境の悪さ ハラスメント	11
思っていた仕事ではなかった	1
キャリアアップの転職	3
ハラスメント	8
人間関係	6

Q48 SQ6 「いいえ」の方に伺います。もう一度非正規公務の仕事をしたいですか

	人数
したい	4
したくない	10
場合によってはする	16
無回答	4
合計	34

セクション6 全員に質問します。新型コロナ感染症の影響についておたずねします。

Q49. コロナ関係で業務がふえましたか

	%	人数
増えた	28.3	149
増えていない	4.2	22
減った	4	21
変わらない	4.8	41
どちらともいえない	10.5	55
合計	100	526

Q52 あなた自身がコロナに罹患しましたか

	%	人数
した	18.3	97
していない	52.9	281
無回答	28.8	153
合計	100	531

Q50. コロナの感染予防対策・コロナに関して、正規職員と違う対応をされたことがありますか

	%	人数
された	12.2	65
されなかった	41.2	219
無回答	46.5	247
合計	100	531

Q52 SQ1 コロナに罹患した方は、休みの形態を教えてください

	%	人数
有給	13.4	13
無給	10.3	10
病休(有給)	15.5	15
病休(無給)	2.1	2
コロナ関係特休	57.7	56
無回答	1	1
合計	100	97

Q51. ワクチン副反応・ワクチン後遺症・濃厚接触扱い・コロナ後遺症などで休むことはありましたか

	%	人数
休んだ	36.9	196
休まなかった	32.8	174
無回答	30.3	161
合計		531

Q52 SQ2 コロナに罹患した事でハラスメント・差別をうけましたか

	%	人数
うけた	9.4	9
うけていない	90.6	87
合計	100	96

Q51. SQ1 休んだ方に聞きます。休みの形態を教えてください。

	%	人数
有給	17.5	34
無給	11.3	22
病休(有給)	8.9	17
病休(無給)	1.5	3
コロナ関係特休(有給)	60.8	118
合計	100	194

Q52 SQ3 コロナに罹患後、後遺症を発症しましたか？

(医師の診断書有の場合をさしています%)

	%	人数
した	10.5	10
していない	89.5	85
合計	100	95

Q52 SSQ4 「コロナ後遺症を発症した」と言う方にお尋ねします。コロナ後遺症で仕事を休むことができましたか。

	人数
あった	5
なかった	5
合計	10

Q52 SSQ5 休んだ事で、雇用に変化がありましたか

人数

あった	2
なかった	3
合計	5